

PHILHARMONY

May 2025
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

99th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。

SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。

ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、

周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.

When you share the photos on social media, please add #nhkso.

Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on “flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」 「自動(オート)」 「オフ」に変更できます。

インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへ
アクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting “Bravo.”



演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting “Bravo,” please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS

MAY 2025

5

- 3 「N響100年記念 個人サポーター」の募集について
- 5 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 13 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 21 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 28 [シリーズ] **N響百年史** | 第55回 | 一九四〇年にやってきたライヴアル 片山杜秀
-
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 34 2025年6月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 36 チケットのご案内(定期公演2024年9月～2025年6月)
- 37 2024～25定期公演プログラム
- 38 2025～26定期公演プログラム
- 44 チケットのご案内(定期公演2025年9月～2026年6月)
- 45 特別公演／各地の公演／海外公演
- 51 曲目解説執筆者・歌詞対訳者／Information(計報)／N響の出演番組
- 52 特別支援・特別協力・賛助会員
- 56 みなさまの声をお聞かせください!
- 57 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 58 Program A
- 63 Program B
- 67 Program C
-
- 72 The Subscription Concerts Program 2024～25
- 73 The Subscription Concerts Program 2025～26
- 76 Overseas Tours
-
- 77 N響関連のお知らせ
- 78 N響の社会貢献
- 79 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
飯塚歩夢
○字根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
横山俊朗

米田有花

* 清水伶香
* 湯原佑衣

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小畠茂隆
* 栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小畠幸法
○中 実徳
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
* 中村周平
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
* 大内秀介
佐藤由起
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝保 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>



(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

「N響100年記念 個人サポーター」の募集について



NHK交響楽団は、1926年10月5日に「新交響楽団」の名称で結成されて以来、今日に至るまで、世界一流の指揮者やソリストたちと数多く共演を重ね、国内最高峰のオーケストラとしてたくさんのファンの皆様に愛されてまいりました。

そしてついに、数々の名演に彩られたその歴史は、2026年に「創立100年」という大きな節目を迎えます。2026年1月からのこの特別な1年に、N響は記念となる公演の数々をはじめ、さまざまな記念事業を行う予定です。

多彩な取り組みを通じて、長い歴史を支え応援していただいたすべての方々への感謝と「次の100年」に向けた私たちからのメッセージをより多くの皆様にお届けしたく、これらの活動を応援して下さる「N響100年記念 個人サポーター」を広く募集し、歴史の1ページにお名前を刻ませていただきたいと思います。ぜひ、皆様の温かい応援をお願い申し上げます。

募集期間 2025年4月～10月

寄付額 1口10万円(最大5口まで)

※ お申し込み方法など詳しくは、N響ホームページまたはお申し込みページ(右記QRコード/外部サービス「コングラント」のページとなります)をご覧ください。

※ N響は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は国内における税制上の優遇措置の対象となります。

※ 「N響100年記念事業」の概要は、2025年秋ごろの発表を予定しています。



Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT 東日本

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

PROGRAM

A

第2036回

NHKホール

4/26 土 6:00pm

4/27 日 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ

メゾ・ソプラノ

オレシア・ペトロヴァ

女声合唱

東京オペラシンガーズ(合唱指揮:仲田淳也)

児童合唱

NHK東京児童合唱団(児童合唱指揮:金田典子)

コンサートマスター

長原幸太

N響ヨーロッパ公演2025 プログラム

マーラー

交響曲 第3番 二短調[100']

- I 力強く、決然と
- II テンポ・ディ・メヌエット、とても穏やかに
- III コモド・スケルツァンド、慌てないで
- IV きわめてゆるやかに、ミステリオソ、一貫して *ppp*
- V 活発な速度で、表情は大胆に
- VI ゆるやかに、平靜に、感情をこめて

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください



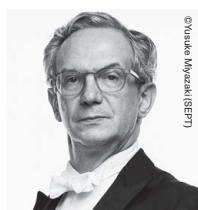
こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles

ファビオ・ルイージ(指揮)



©Susanne Meyer/Stern

1959年、イタリア・ジェノヴァ出身。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、2023年12月のN響第2000回定期公演ではマーラー《一千人の交響曲》を指揮し、この2つの記念碑的公演で共に大きな成功を収めた。またベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、R. シュトラウスなどのドイツ・オーストリアの作品や、フランクやサン・サーンスといったフランス語圏の作品に取り組み、その歌心と情熱に^{あふ}れた指揮は、多くの聴衆の心を^{つか}みこんでいる。2024年8月にはN響台湾ツアーを率い、2025年5月には「マーラー・フェスティバル」(アムステルダム・コンセルトヘボウ)、「ブラハの春 音楽祭」、「ドレスデン音楽祭」への招待に合わせて行われるヨーロッパツアーで指揮を務める。

これまでにチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督、ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のレコーディングではグラミー賞を受賞した。2025年5月、N響との初めてのCD、ブルックナー《交響曲第8番》(初稿)をリリース予定。

オレシア・ペトロヴァ(メゾ・ソプラノ)



©Susanne Meyer/Stern

力強く濃密な歌唱を聴かせるロシアのメゾ・ソプラノ歌手。レニングラード生まれ。サンクトペテルブルク音楽院卒業。2007年第13回チャイコフスキー国際コンクール声楽部門(女声)第2位。2012年第2回パリ・オペラ座コンクール第1位受賞。2007～2016年サンクトペテルブルク音楽院オペラ・バレエ劇場のソリスト。2014年メトロポリタン歌劇場に《アンドレア・シェニエ》マデロン役でデビューした。2016年からミハイロフスキー劇場のソリスト。《仮面舞踏会》ウルリカ、《スペードの女王》伯爵夫人、《アイダ》アムネリスの各役を演じた。これまでベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、マドリッド・レアル劇場などに出演。2017年からヴェローナ音楽祭に定期的に招かれる。2018年ポリショイ劇場に《スペードの女王》ポリーナ役でデビュー。2023年ロイヤル・オペラ・ハウ

スにアムネリス役でデビューした。

コンサートにも多数出演。ファビオ・ルイーゼ指揮のN響とは2022年9月ヴェルディ《レクイエム》、2023年12月マーラー《一千人の交響曲》に続く共演。2025年N響ヨーロッパ公演でも共演が予定される。今回も陰影に富む歌唱でマーラーの世界を描き出すだろう。

東京オペラシンガーズ(女声合唱)

1992年、「世界水準の合唱を」という故小澤征爾氏の要請を受けて、東京を中心に活動する中堅、若手声楽家によって結成。同年から「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」(現セイジ・オザワ松本フェスティバル)、2004年から「東京・春・音楽祭」に継続的に出演してきた。また、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(サイモン・ラトル、小澤征爾指揮)、シカゴ交響楽団(リッカルド・ムーティ指揮)、バイエルン国立歌劇場(ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮)など、海外オーケストラ、歌劇場の来日公演でも共演。海外での評価も高く、エディンバラ音楽祭(1999年)、上海国際芸術祭(2018年)、上海交響楽団演奏会(2019年)、北京国際芸術祭「相約北京」(2020年)に出演した。

N響とは、2009年にオラトリオ《天地創造》で初共演。以来、年末のベートーヴェン《第9》公演をはじめ、N響が登場する「東京・春・音楽祭」の「ワーグナー・シリーズ」には第1回(2010年)から出演。2024年12月、ファビオ・ルイーゼ指揮の《ファウスト交響曲》では崇高な男声合唱を聴かせた。

NHK東京児童合唱団(児童合唱)

1952年3月、「少年少女に豊かな心を」という願いから、NHKの教育番組と子ども番組の充実を目的として創立されたNHK東京児童合唱団(旧称・東京放送児童合唱団)は、NHKの放送出演はもとより、海外の合唱団との交流や国内の主要オーケストラと共演を重ねている。また、邦人作曲家への合唱作品の委嘱など、多くの作品を国内外に紹介。2022年には創立70周年を迎えた。

「コダーイ・ゾルタン生誕100年記念国際合唱コンクール」青少年部門第1位・総合部門グランプリなど国内外の多数のコンクールに入賞。2009年N響とともに「天皇・皇后両陛下ご成婚50周年ご即位20周年記念コンサート」に出演した。新国立劇場などオペラへの出演も多数。2024年には英国ロイヤル・オペラの日本公演《トゥーランドット》に参加した。N響定期公演へは1971年11月のジャン・フルネ指揮《ファウストの劫罰^{こっはつ}》にて初登場。最近では、2018年12月にチャイコフスキー《バレエ音楽「くるみ割り人形」》、2023年12月マーラー《一千人の交響曲》などで共演した。

[柴辻純子／音楽評論家]

マーラーの《交響曲第3番》は、楽章によって長さも性格も極端に異なり、演奏時間も90分を優に超える破天荒な作品だ。内容面では、《第2番》《第4番》とともに民謡詩集『こどもの不思議な角笛』による歌曲群と有機的に結びついており、自然のうごめく原初の世界は、やがて神の高みを目指す人間の心象風景へと広がる。独唱、児童合唱、女声合唱が加わる大編成の本作。申し分のない聴き応えを堪能していただきたい。

マーラー

交響曲 第3番 二短調

グスタフ・マーラー（1860～1911）は1891年3月にブダペストのハンガリー王立歌劇場監督を辞したあと、1897年にウィーン宮廷歌劇場に移るまで、ハンブルク市立劇場（現ハンブルク国立歌劇場）の首席楽長の職にあった。指揮活動に加えて劇場運営に忙殺される中、1893年夏の休暇からは風光明媚なオーストリアのアッター湖畔シュタインバッハで作曲に没頭するようになる。その環境は彼の創造力を掻き立てた。《交響曲第3番》は《第2番》とともにそこで生まれた大作である。《第2番》が人の死と復活をテーマにしたのに対し、続く《第3番》と《第4番》では生きる喜びが表現されている。ライブツィヒ時代の1887年頃に見つけたドイツ民謡詩集『こどもの不思議な角笛』は、マーラーにピアノ歌曲という実りをもたらしたが、詩から呼び起こされる靈感は大自然を前にしてさらに膨らみ、互いに深く関わるオーケストラ付きの歌曲群と交響曲群へとつながった。

《交響曲第1番》が最初「交響詩」として構想されたとき、文学から刺激を受けて詳細な説明文が付されたように、あるいは《第2番》の第1楽章が《交響詩「葬礼」》として出発したときのように、マーラーは作曲の意図を事細かに言葉で説明する傾向があった。《第3番》でも「従来のありきたりの形式に依るところはなく、交響曲と呼ぶのにふさわしくない」と語り、音楽のコンセプトをヴァイオリン奏者パウアー・レヒナー、歌手ミルデンブルク、友人で物理学者のベルリーナー、音楽評論家マルシャルク、指揮者ワルターらに何度も書き送っている。それらは幾度となく変転したが、そのどれもが、自然のもとにおける人間の営みを表現している。「常に新しく変化を続ける内容が自ずとその形式を決定する」と表明したマーラーの思い通りに、《交響曲第3番》ではわきあがるイメージが音楽に沿って積み重ねられたのである。

例えば完成間近の段階ではこうだ。第1部「導入 牧神が目覚める」「第1楽章 夏が行進してくる」。第2部「第2楽章 野の花々が私に語ること」「第3楽章 森の動物たちが私に語ること」「第4楽章 人間が私に語ること」「第5楽章 天使が私に語ること」「第6楽章 愛が私に語ること」。当初の構想では第7楽章として「天上の生活」が続い

ていたが、のちに《第4番》の第4楽章へと移された。ともあれ、マーラーがよく行うように出版の際にすべての標題は取り払われてしまった。音楽的には、非常に長い両端楽章が4つの楽章を包み込む構成をとる。

第1楽章〈力強く、決然と〉はソナタ形式の枠組みをとりながら、多様な主題群が変容を続ける。8本のホルンによる主題で勇壮に始まり、行進曲を核としたスケールの大きな部分と、管楽器・弦楽器の独奏やアンサンブルによる繊細な部分が巨大な構成を織りなしていく。

第2楽章〈テンポ・ディ・メヌエット、とても穏やかに〉で素朴でのどかな野の風景が描かれ、第3楽章〈コモド・スケルツァンド、慌てないで〉では、『角笛』の歌曲《夏の交代》が言葉なしで登場する。季節の変わり目でカッコウがナイチンゲールにバトンタッチするという内容だ。2つのトリオで舞台外から響くポストホルンが悠久の時を感じさせる。

第4楽章〈きわめてゆるやかに、ミステリオソ、一貫して *ppp*〉で、アルト独唱がニーチェの著作『ツァラトゥストラはこう語った』の一節により人間に警告を発すると、第5楽章〈活発な速度で、表情は大胆に〉では、「ビムバム」と鐘を模した児童合唱に女声合唱が加わり、十戒を犯したペテロがイエスに懺悔し許される場面が、『角笛』の詩によって歌われる。

切れ目なく第6楽章〈ゆるやかに、平静に、感情をこめて〉が弦楽合奏で開始。合奏の主題は変奏と展開を続ける。マーラーが「愛の中で頂点に達し、安らぎに満ちた解決を見つめる」と語ったように、ニ短調で始まった混沌とした世界は、ニ長調で悠然と締めくぐられる。

作曲年代	主に1895年と1896年の夏、オーストリア・アッター湖畔のシュタインバッハ
初演	[部分初演] 第2楽章は1896年11月9日、ベルリン、ニキシュ指揮。第3、第6楽章は1897年3月9日、ベルリン、ワインガルトナー指揮 [全曲初演] 1902年6月9日、クレーフェルトの音楽祭。マーラー指揮、クレーフェルト市立管弦楽団とケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団の合同演奏。ルイーゼ・ゲラー・ヴォルター（アルト）、オラトリオ協会女声合唱団、聖アンナ児童合唱団
楽器編成	フルート4（ピッコロ4）、オーボエ4（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット4（Esクラリネット1、バス・クラリネット1）、Esクラリネット1、ファゴット4（コントラファゴット1）、ホルン8、トランペット4、トロンボーン4、チューバ1、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、シンバル付き大太鼓、小太鼓、トライアングル、タンブリン、鞭、銅鑼、グロッケンシュピール、鐘、ハープ2、弦楽、児童合唱、女声合唱、アルト・ソロ、バンダ：ポストホルン1、小太鼓

マーラー

交響曲 第3番 二短調 歌詞対訳

Symphony No. 3 d minor

IV

詞(原詩)◎フリードリヒ・ニーチェ | Text: Friedrich W. Nietzsche

訳◎山本まり子 | Translation: Mariko Yamamoto

※原詩：ニーチェ『ツァラトゥストラはこう語った』第4部第19章「酔歌」第12節より

※ドイツ語歌詞はマーラーによる。プライトコプフ版楽譜に従っている

V

詞(原詩)◎民謡 | Text: Folk song

訳◎山本まり子 | Translation: Mariko Yamamoto

※原詩：ブレンターノ、アルニム編纂『こどもの不思議な角笛』より「貧しいこどもの物乞いの歌」(III-79)

※ドイツ語歌詞はマーラーによる。プライトコプフ版楽譜に従っている

※ドイツ語歌詞の()はマーラーが付加した歌詞

IV

O Mensch! Gib Acht!
Was spricht die tiefe Mitternacht?
Ich schlief!
Aus tiefem Traum bin ich erwacht!
Die Welt ist tief!
und tiefer, als der Tag gedacht!
O Mensch! Tief!
Tief ist ihr Weh!
Lust tiefer noch als Herzeleid!
Weh spricht: Vergeh!
Doch alle Lust will Ewigkeit!
will tiefe, tiefe Ewigkeit.

V

Es sangen drei Engel einen süßen
Gesang;
mit Freuden es selig in dem Himmel
klang,
sie jauchzten fröhlich auch dabei,
dass Petrus sei von Sünden frei.
Und als der Herr Jesus zu Tische sass,

IV

おお、人間よ！ 心して聞け！
深い真夜中は何を語るのか？
私は眠っていた！
深い夢から私は目覚めた！
この世は深い！
そして昼が考えていたよりも深い！
おお、人間よ！ 深い！
深いのはこの世の悲しみ！
悦びは心の痛みよりもなお深い！
悲しみは言う「消え失せろ！」と。
だが、あらゆる悦びは永遠を欲する！
深い、深い永遠を欲する。

V

3人の天使が甘美な歌をうたっていた。
それは歓喜にあふれ、至福に満ちて天国に響いた。
天使たちもまた、嬉しそうに歓呼した。
ペテロは罪から放免されたのだと。
そして、主イエスが食卓につかれて、

mit seinen zwölf Jüngern das Abendmahl
ass:

Da sprach der Herr Jesus: Was stehst du
denn hier?

Wenn ich dich anseh', so weinst du mir!
Und sollt' ich nicht weinen, du gütiger
Gott.

(Du sollst ja nicht weinen!)

Ich hab' übertreten die zehn Gebot.

Ich gehe und weine ja bitterlich.

Ach komm und erbarme dich über mich!

Hast du denn übertreten die zehen Gebot,
so fall auf die Kniee und bete zu Gott!

Liebe nur Gott in alle Zeit!

So wirst du erlangen die himmlische Freud',
die himmlische Freud' ist eine selige Stadt
die himmlische Freud', die kein Ende
mehr hat!

Die himmlische Freude war Petro bereit't,
durch Jesum und Allen zur Seligkeit.

12人の使徒たちと晩餐をともにされたとき、

主イエスは言われた。「なぜ、ここに立っ
ているのだ?

私がお前を見たら、私のために涙するであろう!」
「私は泣いてはならないのですか?

寛大な神よ

(泣いてはならない!)

私は十戒を犯してしまいました。

そちらへ行って思いきり泣きたいのです。

ああ、こちらへ来て私を憐れんでください!」

「おまえが十戒を犯したというのなら、

ひざまずいて、神に祈りなさい!

ひたすら神を愛しなさい!

そうすれば、天国の喜びを手になきよう!」

天国の喜び、それは至福に満ちた街

天国の喜び、それは果てしない!

天国の喜びはペテロにもたらされた、
イエスにより すべての人々の至福のために。

指揮者として多忙をきわめたマーラーは、オフタイムも勤勉だった。ハンブルク市立劇場首席指揮者時代は、ザルツブルク近郊の避暑地シュタインバッハに作曲小屋をつくって、規則正しく創造的な生活を送り、充実した作品群を生み出した。「世界一長大な交響曲」として一時期ギネスブックに認定されていたほどの巨大な規模をもつ《交響曲第3番》は、湖畔にひろがる自然のエネルギーを吸収することなくしては生まれなかったに違いない。

A 2025, MAY
[第2036回]

オーケストラで森羅万象を描きつくす

グスタフ・マーラー

Gustav Mahler (1860–1911)

マーラーの作品は、オーケストラによって
森羅万象を表現しつくそうという
創意に満ちている

イラストレーション: ©IKE

マーラーと自然

マーラーの時代、ドイツではワグナーフォーゲル運動がおこななど、自然回帰の動きがさかんだった。マーラーもまた、休暇を自然のなかで過ごすことで創作意欲を養った。現代で言えばオンもオフも充実させるパワー・ビジネスパーソンの二拠点生活といったところだろうか。



B

第2037回

サントリーホール

5/1 木 7:00pm

5/2 金 7:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ | プロフィールはp.6

ヴァイオリン

諏訪内晶子

ソプラノ

森 麻季*

コンサートマスター

郷古 廉

N響ヨーロッパ公演2025 プログラム

ベルク

ヴァイオリン協奏曲[27']

I アンダンテ—アレグレット

II アレグロ—アダージョ

——休憩(20分)——

マーラー

交響曲 第4番ト長調*[56']

I 落ち着いて、急がずに

II ゆったりとした動きで、慌てないで

III 安らぎに満ちて:ポーコ・アダージョ

IV 非常にくつろいで

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

B

諏訪内晶子(ヴァイオリン)



1990年に史上最年少でチャイコフスキー国際コンクールに優勝して以来、国際的な活躍を続けるヴァイオリン奏者。江藤俊哉などに師事し、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース、ジュリアード音楽院およびコロンビア大学、国立ベルリン芸術大学に学んだ。演奏活動に加えて2012年に「国際音楽祭NIPPON」を創設、芸術監督として東京や東北各地や愛知などで演奏会やマスタークラスも行なっている。

NHK交響楽団の定期公演への初登場は1991年11月で、尾高忠明の指揮でブルッフの《ヴァイオリン協奏曲第1番》を演奏した。最近では、2022年2月の「国際音楽祭 NIPPON2022」で、尾高忠明指揮でデュティユーの《ヴァイオリンと管弦楽のための夜想曲「同じ和音の上で」》とブラームスの《ヴァイオリン協奏曲》を共演し、好評を得た。

ベルクの《ヴァイオリン協奏曲》は、続くヨーロッパ公演でも3都市で演奏が予定されている。艶やかさと力強さを併せ持つ諏訪内の愛器、1732年製作のガルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」(Dr. Ryuji Uenoより長期貸与されている)が、儚くも耽美な響きをもたらすことだろう。

森 麻季(ソプラノ)



高く澄んだ歌声と、コロラトゥーラ歌唱の技術をそなえたソプラノ。東京藝術大学と同大学院、ミラノとミュンヘンなどで学び、プラジド・ドミンゴ世界オペラコンクール「オペラリア」ほか、国内外のコンクールに上位入賞している。

1998年に日本人として初めてアメリカのワシントン・ナショナル・オペラの《後宮からの誘拐》に出演、その後も欧米各地の歌劇場に出演した。

国内では《椿姫》のヴィオレッタなどさまざまなオペラ公演のほか、リサイタルやコンサートを各地で行なっている。NHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』メインテーマの歌唱でも名高い。

NHK交響楽団の定期公演への初登場は2000年5月で、デーヴィッド・ロバートソンの指揮でモーツァルトのモテット《踊れ、喜べ、幸いな魂よ》の独唱をつとめた。以後もモーツァルトの《レクイエム》や、ベートーヴェンの《交響曲第9番「合唱つき」》の公演に出演している。

マーラーの《交響曲第4番》終楽章のソプラノは、天国での幸福な生活を軽やかに、また可憐に歌うものだけに、森にとって適役となるだろう。

[山崎浩太郎／音楽評論家]

これから演奏される2つの作品はどちらも、NHK交響楽団が今年5月に行う5年ぶりのヨーロッパ公演に組み込まれている。ベルクはソリストも変わらず「プラハの春 音楽祭」、「ドレスデン音楽祭」、オーストリアのインスブルックにおいて。マーラーはアムステルダムで開催される「マーラー・フェスティバル2025」、「ドレスデン音楽祭」、ベルギーのアントワープ、ウィーンにおいて。首席指揮者に就任して3年となるルイージとともに、現在のN響の魅力をヨーロッパの聴衆に存分に伝えることができるだろう。その期待と予感を胸に、本日の演奏を楽しみたい。

ベルク

ヴァイオリン協奏曲

アルバン・ベルク(1885～1935)はマーラー(1860～1911)の音楽をこよなく愛し、その妻アルマ(1879～1964)とも親しかった。アルマが再婚相手ワルター・グロピウスとの間に授かった娘マノンのことも可愛がっていた。ところがマノン(1935年4月22日)にポリオによって18歳で早逝。こうして同年2月に依頼され、3月からスケッチを開始していた《ヴァイオリン協奏曲》は「ある天使の思い出に」捧げられることになった。

「ある天使」＝マノンの肖像として、第1楽章は“無垢さ”と“気まぐれさ”を、第2楽章は“闘病”と“昇天”を描いている。だが同時に、2つの楽章は前半と後半に分けられるため実質的には、マーラー《交響曲第9番》(1909)の構成に沿った4楽章制(かつ、それぞれの楽章が自由な3部形式[A-B-A'])になっていて、のちの研究によるとマノンへの追悼であるだけでなく、ベルク自身の人生の回想であることも明らかになった。8月に完成を迎えたのちに、ベルクも12月24日に50歳で急逝したのだ。

第1楽章 前半の[A]は、ヴァイオリンの開放弦を基調にした柔らかな響きではじまる。管弦楽がゆったりと伴奏のリズムを刻みはじめると、その上で独奏ヴァイオリンが作品全体の基礎となる12音音列を提示し、変奏を進める。[B]では12音音列を用いて新たな旋律が生みだされ、対位的に発展。独奏が重音のトレモロを奏でると[A']となるが、主部とは反対の順番にシンメトリー構造で要素が再現される。切れ目なく、後半が少しテンポの上がったクラリネットの旋律で始まる。「戯れるように」「ウィーン風に」「素朴に」と楽譜に書かれた3種のメロディが交代する[A]のあと、メリハリがはっきりした[B]を経て、再現[A']が続く。楽章終わりでテンポが落ちると、「ミッツィーのベッドで寝坊するところだった」という歌詞を持つオーストリア南部ケルンテン州の民謡をホルンが吹き始める。ミッツィーはケルンテンにあるベルク家の別荘に雇われていた家政婦マリー・ショイヒルのことだとされる。15歳年上の彼女との間に娘を授かったベルク(当時17歳)だったが、母

娘と一緒に暮らすことは叶わなかった……。

第2楽章 前半の[A]は積みあがっていく不協和音のあと、反復される特徴的なリズムが音楽を進める。テンポが大幅に落ち、うっすらと第1楽章の要素が取り込まれていく[B]を経て、緊迫感を増した[A]が戻ってくる。後半の[A]は穏やかな雰囲気となり、J. S. バッハ《カンタータ第60番》の第5曲コラール〈私は満ち足りて〉から旋律が引用される。この旋律は12音音列の終わり4音とも繋がり、上下逆さまの反行形となる[B]でクライマックスを迎えたあと、ケルンテン民謡が再登場。最後はコラールの旋律が再現されていき、澄みきった響きで天へと召される。

作曲年代	1935年
初演	1936年4月19日、バルセロナ、カタルーニャ音楽堂、ルイス・クラスナー独奏、ヘルマン・シェルヘン指揮、バブロ・カザルス管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ2)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(アルト・サクソフォン1)、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、シンバル付き大太鼓、小太鼓、トライアングル、銅鑼、ゴング、ハープ、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

マーラー

交響曲 第4番 ト長調

グスタフ・マーラー(1860~1911)は死が怖くてしかたがない作曲家だった。だからこそ《交響曲第2番「復活」》(1888~1894)では、神の御許へ羽ばたけると歌うことで死を肯定的に捉えようとしたのだろう。続く《第3番》(1895~1896)では、1880年代に「神は死んだ」と宣言した哲学者ニーチェの言葉を第4楽章で取りあげたあと、天使と神を描いた第5~6楽章を続け、神の救済がまだ必要だと主張する。

しかし神の愛を表現した第6楽章があまりに長くなってしまったため(他の説もある)、全7楽章という当初のプランは断念する。第7楽章になる予定だった『こどもの不思議な角笛』に基づく歌曲《天上の生活》(1892)を終楽章に据えた交響曲として、あらためて構想されたのが本作《第4番》(1899~1900)なのだ。

第1楽章 ト長調、4分の4拍子。冒頭で鳴り響く鈴は、道化師の帽子の先についている鈴を表している。ソナタ形式の提示部(および再現部)は、こどもとじゃれ合っているかのような、道化師の純朴な姿を想起させるが、展開部では“悲しみ”や“狂気”といった別の顔も垣間みせ、どんちゃん騒ぎを引き起こす。

第2楽章 ハ短調、8分の3拍子。コンサートマスターが長2度高く調弦したヴァイオリンに持ち替え、「死の舞踏」の死神が奏でるフィドルを表現。この間に挟まれる2つの中間部では平穏な天上が描かれ、まるで死神が「怖くないよ」と死へと誘っているかのよう

である。死の前では貴族や高名な聖職者であろうと身分の違いは意味をなさない。人類みな平等であるのだ、と。

第3楽章 ト長調、4分の4拍子。神の愛を描いた《交響曲第3番》の第6楽章を、あらためて短く書き直したような緩徐楽章。穏やかな心境で死を迎えんとする第1主題（楽譜には「安らぎに満ちて」と書かれている）と、もの悲しい第2主題が交互に変奏されていく。

第4楽章 ト長調一ホ長調、4分の4拍子。死を迎えたことで《天上の生活》に到達。詩の第1節では天上のすばらしさが歌われるが、第2節の前に鈴の音が鳴り響いてからは道化師のブラックユーモアが前面に押し出されていく。マーラーは天使、神だけでなく天国の存在をも信じているのだが、そこでの生活が何の問題もないものだとは思っていなかったようだ。人間の欲望が死後も際限ないことを、ソプラノ（こどものように歌うが実は道化と捉えられる）が純粹無垢に歌いあげる。

例えば第2節で「ヨハネは子羊を放してしまい、肉屋のヘロデがそれを待ち受ける！（……）汚れを知らない寛容なかわいい子羊を死に導くのだ！」と歌われるが、この子羊というのがイエス・キリストのことなのだ（そして三位一体の考えから「神とイエスと精霊」は同一の存在である）。続いて「天上ではワインもパンも食べ放題」といった内容が歌われるが、もちろんこのワインはイエスの血であり、パンはイエスの体のことである。マーラーは神のことを信じていても、人間に対して徹底的に懐疑的なのである。

作曲年代	1892年（第4楽章の原曲）、1899～1900年
初演	1901年11月25日、ミュンヘン、カイト・ザール、作曲者自身の指揮、カイト管弦楽団（現・ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団）、マルガレーテ・ミハレク独唱
楽器編成	フルート4（ピッコロ2）、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット3（Esクラリネット1、バス・クラリネット1）、ファゴット3（コントラファゴット1）、ホルン4、トランペット3、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアング ル、鈴、銅鑼、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽、ソプラノ・ソロ

マーラー

交響曲 第4番 ト長調 歌詞対訳

Symphony No. 4 G Major

詞(原詩)◎民謡 | Text: Folk song

訳◎山本まり子 | Translation: Mariko Yamamoto

※原詩: プレンターノ、アルニム編纂『こどもの不思議な角笛』より「天国にはヴァイオリンの音がいっぱい」(I-304)

※ドイツ語歌詞はマーラーによる。ブライトコプフ版楽譜に従っている

IV

Wir genießen die himmlischen Freuden,
drum tun wir das Irdische meiden.
Kein weltlich' Getümmel
hört man nicht im Himmel!
Lebt Alles in sanfterster Ruh'!
Wir führen ein englisches Leben!
Sind dennoch ganz lustig daneben!
Wir tanzen und springen,
wir hüpfen und singen!
Sanct Peter im Himmel sieht zu!

Johannes das Lämmlein auslasset,
der Metzger Herodes drauf passet!
Wir führen ein geduldig's,
unschuldig's, geduldig's,
ein liebliches Lämmlein zu Tod!
Sanct Lucas den Ochsen tät schlachten
ohn' einig's Bedenken und Achten,
der Wein kost kein Heller
im himmlischen Keller,
die Englein, die backen das Brot.

Gut' Kräuter von allerhand Arten,
die wachsen im himmlischen Garten!
Gut' Spargel, Fisolen
und was wir nur wollen!
Ganze Schüsseln voll sind uns bereit!
Gut' Äpfel, gut' Birn' und gut' Trauben!
die Gärtner, die Alles erlauben!

IV

私たちは天国の喜びを満喫している、
だから俗事など避けるのだ。
俗世間の喧騒^{けんそう}など
天国では聞こえない!
あらゆるものはこの上ない安らぎの中に!
私たちは天使の生活を送っている!
それでもとにかく実^じに楽しい!
私たちは踊ったり跳ねたり、
飛んだり歌ったり、そう歌ったりしている!
それを聖ペテロが天国で見守っている!

ヨハネは子羊を放してしまい、
肉屋のヘロデがそれを待ち受ける!
私たちは
汚れを知らない寛容な
かわいい子羊を死に導くのだ!
聖ルカは雄牛に手をかけてしまいそうだ
何も考えず、何も意に介さずに、
天国の酒蔵では
酒にお金はかからない、
パンを焼いているのは天使たち。

さまざまな種類のおいしい野菜が
天国の庭で育っている!
おいしいアスパラガス、インゲン豆
それに、ほしいと思うものなら何でも!
器いっばいに用意されている!
おいしいリンゴにおいしい梨、おいしいブドウ!
庭師は何だって許してくれる!

Willst Rehbock, willst Hasen,
auf offener Strassen
sie laufen herbei!

Sollt ein Fasttag etwa kommen
alle Fische gleich mit Freuden
angeschwommen!
Dort läuft schon Sanct Peter
mit Netz und mit Köder
zum himmlischen Weiher hinein.
Sanct Martha die Köchin muss sein!

Kein Musik ist ja nicht auf Erden,
die uns'rer verglichen kann werden.
Elftausend Jungfrauen
zu tanzen sich trauen!
Sanct Ursula selbst dazu lacht!
Cäcilia mit ihren Verwandten
sind treffliche Hofmusikanten!
Die englischen Stimmen
ermuntern die Sinnen!
dass Alles für Freuden erwacht.

鹿がほしければ、野ウサギがほしければ、
天下の大通りを
そうした動物たちが駆け寄ってくる!

断食日が来たら
魚はみんな喜んで
泳いでくる!
聖ペテロは早速出かけ
網と餌を持って
天国の池にはいる。
聖マルタが料理するに違いない!

地上のどこにも、私たちの音楽に、
匹敵するような音楽などない。
大勢の乙女たちが
思いきって踊っている!
聖ウルズラも自らそれを笑っている!
チェチーリアとその一族は
すばらしい宮廷音楽家だ!
天使の歌声は
五感を掻き立てる!
すべてが喜びに目覚めるように。

前衛的かつロマンティックな唯一無二の作風

アルバン・ベルク

Alban Berg (1885–1935)

シェーンベルク、ウェーベルンとともに「新ウィーン楽派」として前衛的な作曲法を推し進めたベルクだが、3人の中ではもっともロマンティックな作風で知られる。ヴァイオリン協奏曲の依頼を受けた彼は、マラーの妻アルマ

が夫の死後、建築家グロピウスと再婚してもうけた娘マノンの急逝を悲しみながら、この協奏曲を完成させた。「ある天使の思い出に」という献辞には、マノンだけでなく、かつて別れたわが娘の思い出がこめられているという。

B
2025
MAY
[第2037回]
👁️👁️

はかなく世を去ったマノンに
みずからの若き日を重ねて……
イラストレーション: ©IKE



「ある天使」とは誰か

ベルクは聡明で美しいマノンをことのほか可愛がったという。青年時代に使用人だった女性とのあいだに娘をもうけながら引き離された過去をもつベルクは、マノンの思い出に、若き日の愛の記憶を重ねたのだろう。そして彼もまた、『ヴァイオリン協奏曲』が完成したその年の暮れに世を去ってしまったのだ。

PROGRAM

C

第2038回

NHKホール

5/30 金 7:00pm

5/31 土 2:00pm

指揮

ギエドレ・シュレキエーテ

ピアノ

藤田真央★

コンサートマスター

長原幸太

シューベルト

「ロザムンデ」序曲[10']

ドホナーニ

童謡(きらきら星)の主題による変奏曲

作品25★[23']

—— 休憩(20分) ——

R. シュトラウス

歌劇「影のない女」による

交響的幻想曲[20']

R. シュトラウス

歌劇「ばらの騎士」組曲[22']

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは56ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

30 & 31. MAY. 2025

C

ギエドレ・シュレキーテ (指揮)



©Theater Pöchl

今回が、NHK交響楽団と初共演となるギエドレ・シュレキーテは、リトアニアのビリニュス生まれ。母国の作曲家チュルリヨニスの名を冠した芸術大学で学んだ彼女は、^{けんさん}グラーツ国立音楽大学やチューリヒ芸術大学などで指揮法の研鑽を重ね、いくつもの国際指揮者コンクールで入賞。2016年から2018年までクラーゲンフルト市立劇場の第1カペルマイスターを務め、2021年にリンツ・ブルックナー管弦楽団の首席客演指揮者に就任したという経歴の持ち主だ。

すでにフランクフルト歌劇場やバイエルン国立歌劇場などで新演出の歌劇の指揮をまかされ、2024-25年楽季にはウィーン国立歌劇場へのデビューやベルリン国立歌劇場への再登場など、オペラの分野で活躍しながら、コンサート指揮者としても積極的な活動を展開している。2021年に東京二期会のモーツァルト《歌劇「魔笛」》を指揮するために初来日し、2023年には読売日本交響楽団に客演。マルティナイティエテやシェルクシュニーテの作品をCDでリリースするなど、同時代の音楽も手がけている。

今回の定期公演には、R. シュトラウスの歌劇に基づく管弦楽曲、そしてピアノの名手であったドホナーニの佳作など、オーケストレーションの妙が愉しめる演目が並んでいる。機敏でしなやかな動きで的確にキューを出しながら、みずみずしく音楽を紡ぎ上げるシュレキーテの手腕に期待したい。

[満岡信育／音楽評論家]

藤田真央 (ピアノ)



©Daisuke Shimada

東京生まれ、26歳のピアニスト藤田真央は、東京音楽大学在学中の2017年に、スイスの権威あるクララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールで優勝し、併せて聴衆賞など複数の賞を受賞。2019年第16回チャイコフスキー国際コンクールのピアノ部門において第2位を受賞し、世界的な注目を集めた。シャイー、エッセンバッハ、ネルソンス、デュトワ、ビシュコフといった著名指揮者、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、NHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団といった国内外の主要オーケストラとの共演を重ねている。また、ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、エディンバラ国際音楽祭、BBCプロムスなどからの^{しょうへい}招聘が相次ぐ。レパートリーは広く、天真爛漫な^{らんまん}モーツァルトから、官能的なスクリャーピンまで、緻密な解釈と確かな技術力によって鮮やかに表現する。親しみ深い主題が豊かに展開するドホナーニ作品を、藤田は色鮮やかに届けてくれることだろう。N響との共演は2021年以来4年ぶり。

[飯田有抄／クラシック音楽ファシリテーター]

どこまでも転調できるのは、調性があるからだ。本日のメインはシュトラウスとドホナーニ。前衛の旗手たちが無調に向かった1910年代、2人はそれぞれ調性の世界にとどまり、既存の技法の可能性を追求した。面白いことに、シューベルトの序曲を含め、本日の曲目はいずれもどこかでモーツァルトの作品世界と関係している。そしてどれもハ長調で終わるので(見事な選曲!)、ここは腰をすて、美しい響きと転調の妙を堪能してみてはいかがだろうか。

シューベルト

「ロザムンデ」序曲

未完のオラトリオ《ラザルス》、同じく未完のオペラ《サクンタラー》など、1820年のフランツ・シューベルト(1797~1828)はじつに多くの劇音楽に取り組んだ。ゲオルク・フォン・ホフマンの魔法劇『魔法の堅琴』(1820年8月初演)のための音楽もそのひとつで、この劇のために彼は序曲2曲、合唱6曲、メロドラマ(音楽つきの語り)6曲を書いている。

ウィーンの「魔法劇」は視覚的効果を伴う庶民的なジャンルで、過去にはモーツァルトが傑作《魔笛》(1791)を残している。《魔法の堅琴》も同じ伝統の延長線上にあったと考えられるが、同時代の評価は低かった。音楽や装置について好意的な意見はあったものの、筋が「退屈」で、8回の上演のあと、完全に忘れられてしまった。

ただ、シューベルト本人は第1幕への序曲の出来に満足していたらしく、3年後の1823年にヘルミーネ・フォン・シェジの劇《ロザムンデ》のための付随音楽を準備した際にこの曲を再利用している。それが連弾用に編曲されて1828年に世に出たことから、今日、本作は《「ロザムンデ」序曲》として親しまれている。

序奏はアンダンテ、4分の3拍子。冒頭の7つの和音は《魔法の堅琴》第1幕、女魔法使いを呼び出す場面のもの。のびやかな旋律が続き、ハ短調から変ホ長調、変ト長調へとつぎつぎに転調していく。主部はアレグロ・ヴィヴァーチェ、2分の2拍子、ハ長調。展開部を省略したソナタ形式で書かれており、最後はフォルティッシモ、8分の6拍子で華やかに閉じられる。

作曲年代	1820年夏
初演	1820年8月19日、アン・デア・ウィーン劇場、ウィーン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25

「頭の中に大規模な変奏曲を書く構想があったので、それをもとに作曲できるような、なにか単純なモチーフを探しました。ロダンだって『考える人』をつくるとき、最初にモデルを選んだわけでは明らかになく、『考えること』をどう表現するかを熟考したでしょう。わたしはもちろんよろこんで、あの童謡のモチーフを選びました。この旋律がユーモアを活かす機会を与えてくれるからです。」

童謡《きらきら星》と言えば、モーツァルトのピアノ曲《「ママ、聞いてちょうだい」による変奏曲》(K. 265)の主題として有名だ。エルンスト・フォン・ドホナーニ(1877～1960)のような、当時の人気ピアニストがそれをもとに曲を書いたとなれば、あの旋律からどんな靈感を受けたかが当然、話題になるわけだが、本人は最晩年の1960年のインタビューで、主題が出発点にあったわけではなかったことをあっさり認めている。別の談話でも「芸術音楽の場合、創作は旋律の創案からはじまるとはかぎらない」と述べているので、これは彼の創作観でもあるのだろう。

伝記作者バーリント・ヴァージョニによれば、ドホナーニは主題を決める前からすでにワルツ、コラル、オルゴール、フーガの変奏を含めるつもりだったという(第7変奏、第11変奏、第5変奏、終曲)。このヴァリエティの豊かさからも、彼が遊び心を大事にしていたことがうかがえるだろう。ベルリンで活躍していたキャリア前期を代表する、じつに楽しい作品だ。

全体は序奏、主題、11の変奏、終曲からなる。リスト風の第1変奏に対して第3変奏はブラームス風。第2変奏ではホルンの勇壮な響きを聞ける。第4変奏から第6変奏にかけてはピアノといくつかの楽器とのアンサンブル。ワルツ、行進曲、スケルツォ(第7変奏から第9変奏)のあとにテンポを落とし、パッサカリア(第10変奏)を経てコラル(第11変奏)で頂点に至る。終曲は目まぐるしいフガートではじまり、主題を今一度示したあと、華やかに終わる。

作曲年代	1913～1914年
初演	1914年2月17日、作曲者のピアノ、カール・バンツナー指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー会館
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、シロフォン、鐘、チェレスタ、ハープ1、弦楽、ピアノ・ソロ

歌劇「影のない女」による交響的幻想曲

「これはある魔法メルヘンで、2人の男性と2人の女性が対峙^{たいじ}致します。[中略] 色彩豊かなスペクタクルで、宮殿あり、みすばらしい小屋あり、僧侶たちも、舟も、たいまつも、岩山の小道も、合唱も、子供たちも出てきます。[中略] (それは) ちょうど《ばらの騎士》が《フィガロ》とある意味で関連しておりましたように、《魔笛》と関連しています。」(中島悠爾訳)

台本作者フーゴ・フォン・ホフマンスタールが《影のない女》の計画をリヒャルト・シュトラウス(1864~1949)に打ち明けたのは1911年3月のことだった。テーマはおそらく不妊。霊界の大王カイコバードの娘は皇帝の妃になったが、影を持たない。しかし影を得られなければ、夫は石に変わり、自身も霊界に帰らなくてはならないため、彼女は影をもとめ、乳母とともに染物師の家に降りていく。シュトラウスは本作の作曲に3年近く取り組んだ。しかし観念的な台本と巨大な編成、社会情勢の影響で、このオペラはあまり成功にめぐまれなかったようだ。

《歌劇「影のない女」による交響的幻想曲》は1946年につくられた「編曲もの」である。敗戦で財産を失い、スイスに移住したシュトラウスが本作を書いた背景には、おそらく経済的な理由があった。終戦まもない当時、大規模オペラの上演は望めなかったが、管弦楽曲版ならば一定回数の演奏とそれに見合う収入が見込めたのだ。

編曲にあたり、シュトラウスは染物師夫妻を作品の主軸に据えた。冒頭でカイコバードの動機を3度示したあと、二長調の旋律が染色師バラクの善良な性格を描く。それからトリルのざわめきとともに、第1幕の終盤、乳母が「影を売れば贅^{ぜいたく}沢ができる」とバラクの妻を誘惑する場面が続く。スケルツォ風の音楽は第2幕後半、妻が家出する場面からのもの。そのあとにトロンボーンが、バラクの愛の歌を歌う。「自分は影を売らなかった」という妻の告白を経て、さまざまな動機が多声的に展開、クライマックスとともに大団円の、皇帝、皇后、染物師夫妻による四重唱が再現される。

作曲年代	[オペラ] 1914~1917年 [幻想曲] 1946年
初演	[オペラ] 1919年10月10日、フランツ・シャルク指揮、ウィーン国立歌劇場 [幻想曲] 1947年6月26日、カール・ベーム指揮、ウィーン交響楽団、ウィーン・コンツェルトハウス大ホール
楽器編成	フルート4(ピッコロ2)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Cクラリネット1、バセットホルン1、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン、カ斯塔ネット、グロッケンシュピール、シロフォン、チェレスタ、オルガン、ハープ2、弦楽

歌劇「ばらの騎士」組曲

「提示部としての第1幕、そしてあの内省的な幕切れは素晴らしいものです。ところが第2幕にはこの第1幕とのコントラストとしてぜひともなければならぬもの、そして高揚が欠けているのです。[中略]第2幕が^き済まない、それだけでもうオペラは失敗です。いくら見事な第3幕があとに控えていようと、もはや救うことはできません。」(中島悠爾訳)

1909年7月9日、台本作者ホフマンスタールにあてた手紙の中でシュトラウスは《ばらの騎士》の台本について、こう述べている。台本作者が別の手紙で書いているように、筋の軸は「太っちょの中年の、思上がった求婚者(オックス男爵)が、娘(ゾフィー)の父親の愛顧は得たものの、若い美青年(オクタヴィアン)に蹴落とされてしまう」ことにあったが、第2幕の当初の案では求婚者と若い恋人たちとの対立があまり舞台映えるかたちで描かれていなかった。その点を変更するようにシュトラウスはせまったのだ。調整の結果、オクタヴィアンと男爵との決闘シーンや、男爵が小間使い(変装したオクタヴィアン)から恋文を受け取って悦に入る幕切れが加えられ、男爵の口ずさむワルツに大きな音楽的役割が与えられることとなった。このオペラが空前のヒット作となったのは、作り手たちのこうした細かい工夫によるところが大きい。

1945年に出版された《歌劇「ばらの騎士」組曲》は、オペラのダイジェストといった趣の音楽だ(編曲者はおそらくアルトゥール・ロジンスキ)。5部からなり、とくに第2幕から多くの音楽が取り入れられている。冒頭は第1幕導入をほぼそのまま引用。そこから第2幕に移り、ゾフィーのもとにオクタヴィアンが現れ、恋が芽生え、それが発覚するまでが描かれる。次が第2幕幕切れのワルツだ。それから第3幕の元帥夫人、オクタヴィアン、ゾフィーによる有名な三重唱、後2者による二重唱が続き、最後にもう一度、男爵のワルツが演奏される。ただし、こちらは第3幕のスコアに基づくもので、響きがよりにぎやかだ。

作曲年代	[オペラ]1909年～1910年 [組曲]1945年
初演	[オペラ]1911年1月26日、エルンスト・フォン・シュフ指揮、ドレスデン宮廷歌劇場 [組曲]1946年9月28日、ハンス・スワロフスキー指揮、ウィーン交響楽団、ウィーン・コンツェルトハウス大ホール
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(E♭クラリネット1)、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タン布林、ラチェット、グロッケンシュピール、チェレスタ、ハープ2、弦楽

陰惨な題材と前衛的な音楽で話題を呼んだ《エレクトラ》ではじめて手を組んだ作曲家リヒャルト・シュトラウスと台本作家ホフマンスタールが、次作《ばらの騎士》の舞台に選んだのは、貴族文化と市民文化のせめぎあう18世紀マリア・テレジア時

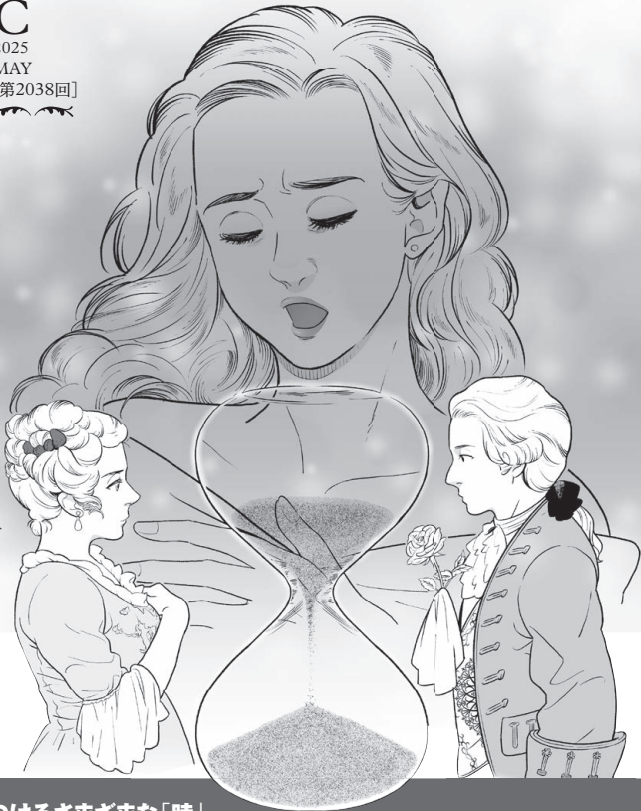
代のウィーン。音楽史上一二を争う名コンビといわれるふたりだが、このときはシュトラウスがホフマンスタールに^{ぼうだい}膨大な手紙で注文をつけ、ぐいぐいとリードするかたちで、この世紀の大ヒット作を完成させた。

Der Rosenkavalier

「時」の交錯を描くオペラ ばらの騎士

C
2025
MAY
[第2038回]
X X X

年下の愛人オクタヴィアンが若いゾフィーに惹かれていくのを見て元帥夫人は「自らの時」の終わりを自覚する
イラストレーション: ©IKE



ワルツが結びつけるさまざまな「時」

流れるように甘美な音楽をバックに、元帥夫人、オクタヴィアン、ゾフィーの恋愛模様が描かれるオペラ…… と思いきや、シュトラウスは当初《オックス》というタイトルを考えていた。オックスとは敵役の粗野な貴族。彼がロザさむワルツは、大人と若者の世代交代、貴族の没落と市民の台頭といった「時」の交錯を描くこのオペラの随所に、あたかも狂言回しのように現れる。

N響百年史

第五十五回 一九四〇年にやってきたライヴアル

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。「紀元二千六百年奉祝楽曲」の世界初演奏会、ついに挙行。前代未聞のオーケストラ総動員の裏には、「ローゼンシュトゥック」新響VS「グルリット」中響」のライヴアル関係がありました。

紀元二千六百年奉祝楽曲

師走の東京宝塚歌劇場から歌舞伎座へ——。

1940(昭和15)年12月1日、日比谷の東京宝塚劇場のオーケストラ・ピットで、山田耕筰のグランド・オペラ《夜明け(黒船)》の世界初演の4日連続興行を、作曲者の指揮のもと無事に終えた新交響楽団は、その6日後には木挽町こびきちょうの歌舞伎座の舞台に乗っていた。「紀元二千六百年奉祝楽曲」の世界初演奏会に出演したのだ。1日限りの演奏会ではない。7日と8日は招待制。特に初日の7日は、皇族、華族、外国使節を多く招き、演奏に先立って、宮城遙拝きゆうじょうはいや日中戦争での戦没将兵の慰霊のための黙禱もくとう、国歌斉唱、近衛文麿首相と松岡洋右外相の挨拶あいさつがあった。そして7日と8日の次は、1週間後の14日と15日にも同じ演奏会が同じ歌舞伎座で催された。こちらは一般公開である。音楽ファンが詰めかけた。さらに、26日と27日には大阪歌舞伎座でも開かれた。「紀元二千六百年奉祝楽曲」の世界初演奏会は6回もあった。東京と大阪の合間になる18日と19日には、日本放送協会の東京のスタジオで「紀元二千六百年奉祝楽曲」のレコード録音もなされた。皇紀2600年の年の瀬、新交響楽団は「奉祝楽曲」漬けのひと月を送ったのである。

そもそもここでいう「紀元二千六百年奉祝楽曲」とは何か。「紀元二千六百年奉祝海外楽曲」という呼ばれ方をすることもある。外国曲ばかりであった。初演奏会の初日が首相と外相の挨拶を伴ったことからわかるように、政府の肝煎りきんいで、海外への新作委嘱いしよくが行われた。委嘱元は奉祝会。近衛首相が会長を務める皇紀2600年奉祝のための組織だ。なぜわ

わざわざ海外に頼んだのか。むろん奉祝催事に国際的な色を付けたかったからだろう。なにしろずっと、東京オリンピックと札幌オリンピックと東京万国博覧会をこの年に集中させるつもりで準備してきたのだ。ところが大陸で始めて終われなくなった戦争が五輪も万博もぶち壊した。自業自得。奉祝催事の大方はドメスティックにならざるを得なくなった。国際性を評価の物差しとするならば価値はすっかり縮減した。戦争だから仕方ないのか。たしかに選手団とか物品とか観光客とかの大移動は難しい。日本をめぐる国際環境もいたるところで軋^{きし}んでいる。だが1940年の段階では、日本が直接に矛^{ほこ}を交えているのは蔣介石^{しょうかいせき}の率いる重慶^{じゅうけい}の国民党政府だけといえはいえる。その年に日本は日独伊三国同盟を結んでいて、欧州では前年から第2次世界大戦が開始され、日本の友邦ドイツは英国と激戦を繰り広げている最中ではあるけれど、日本と英国は別に戦争をしていない。米国は英国や蔣介石の中華民国を支援してはいるものの、日米戦争はまだ先のこと。実際に始まるのは歌舞伎座での奉祝楽曲お披露目のコンサート2日目の12月8日からちょうど1年後だ。そう考えれば1940年の「紀元二千六百年奉祝」に国際色を持たせることは、工夫すればまだ可能だった。近衛首相率いる奉祝会はそれに気づいた。人や物やお金の往来の激しい五輪や万博は無理でも、楽譜を受け取るくらいならできる。ならば海外諸国に「紀元二千六百年奉祝楽曲」を、外交ルートを通じて、国家として依頼するのはどうか。奉祝会は6か国を選んだ。米国と英国とドイツとイタリアとフランスとハンガリーである。1940年に入ってからではない。まとまった曲を頼むとなればそれでは遅すぎる。交渉は1939(昭和14)年のうちに始められた。だが米国は日米関係の現状に鑑^{かん}みて応じられ

ぬと断ってきた。残りの5か国は受けた。

英国は、当時新進気鋭のベンジャミン・ブリテンはどうかと考えた。ブリテンは第2次世界大戦を嫌って米国に長期滞在しているところだった。米国でのブリテンは、作曲家のコーブランドらと親しく付き合い、作曲の依頼もいろいろ受けていたけれど、分のいい定職を得られるわけではなく、しかも本国の家族に仕送りをせねばならぬ身だったから、いつもお金に困っていた。ゆえに、英国政府の設置する国際的文化交流機関、ブリティッシュ・カウンシルの米国での窓口を通じて伝えられた、日本への楽曲提供の話にすぐ飛びついた。日本の奉祝会の提示する作曲料がきわめて高額で魅力的だったからである。提示された価格表によると、交響曲や大規模な管弦楽組曲だと破格の高値になるようだ。日本円にして1万円！現在の日本円にして1800～2000万円にも相当するだろうか。ブリテンはすでに作曲を進めていた、亡き両親を追憶する大規模なオーケストラ曲で日本の期待に応ずることにした。《シンフォニア・ダ・レクイエム(鎮魂交響曲)》が誕生した。そう、交響曲だ。ブリテンは1万円をもらえと思った。ところが日本側の想定する交響曲としては規模が小さい。1ランク下の7千円に値切られてしまった。ブリテンは残念がった。そのうえ、キリスト教精神にもとづく鎮魂曲では祝典にふさわしくないから演奏は見送ると通知された。ブリテンはがっかりした。が、いちおう大金をもらい、経済的にはだいぶん救われたのでよしとした。

結局、この曲の初演は1941(昭和16)年3月にニューヨークで行われた。歌舞伎座のコンサートより約3か月遅れ。では《シンフォニア・ダ・レクイエム》の日本初演は？1956(昭和31)年だ。来日したブリテンがNHK交響楽団を指揮した。1940年から16年後。もしも1940年の

歌舞伎座で初演されていれば、そのとき弾いていたはずの楽団員も多数残っていた時代のNHK交響楽団である。

オーケストラも大同団結？！

とにかくこのようにして、奉祝会の選んだ6か国から米英は外れた。1940年の師走に繰り返し演奏され、SPレコード化もされ、管弦楽総譜も出版されたのは、残る4か国の作品だ。フランスはジャック・イベールの《祝典序曲》。オネゲルが「バッハのトッカータの現代化」と評した力作。演奏時間は約15分。イタリアはイルデブランド・ピッツェッティの《交響曲イ調》。歌舞伎座で聴いた菅原明朗^{すがはらめいろう}を、多年の音楽生活の中のひとつのクライマックスと振り返らせるほどに感動させた、この大作曲家の中でもとりわけの傑作。約45分。ハンガリーはシャンドル・ヴェレシュの《交響曲(第1番)》。バルトークとヒンデミットを調和させたかのような民族的新古典主義の路線。約20分。そしてドイツからはリヒャルト・シュトラウスの《紀元2600年祝典曲》。約15分。これは事実上の交響詩だ。海の彼方、はるか波の向こうに東洋の島国が見えてきて、そこでは桜の花の満開の下、豪奢な花見の宴が催され、同じ作曲家の《ばらの騎士》のように壮麗に盛り上がる。しかし禍々しい音塊が盛り上がり、火山が大噴火し、大地震が起り、日本は惨禍^{さんか}に見舞われるが、なぜかそこで侍が突撃をはじめ、日本は復旧復興をとび、梵鐘群(この曲を演奏するためには巨大な梵鐘を集めて、ステージに並べなくてはならない！しかもその梵鐘群は適切な音程差を持って旋律を奏でられなくてはならない！)が鳴り響いて天皇讃歌^{うた}を謳いあげ、大轟音^{ごうおん}で終わる。この筋立てはなかなか奇妙ともい

えるが、1937(昭和12)年の日独合作の劇映画『新しき土』と関係があろう。アルノルト・ファンクが日本を舞台にして監督し、小杉勇、原節子、早川雪洲^{せつしゅう}らが出演したこの映画では、海の向こうから火山国日本が現れ、その近代文明国としての繁栄ぶりが活写されるが、やがて火山が大噴火し、危機に陥ったヒロインを猪突猛進^{ちよとつもうしん}するヒーローが救出して、そのうち危機は去り、日本の輝かしい未来が約束されるというものである。筋立てがとても似ている。この映画の音楽は山田耕筰が大編成の管弦楽のために作曲し、新交響楽団が演奏した。シュトラウスは少なくとも映画の筋立てを参考にしたのかと想像される。

以上4曲の中で日本の音楽関係者の話題を沸騰^{ふつとう}させたのは、やはりリヒャルト・シュトラウス。新交響楽団を追われ、欧州に渡っていて、シュトラウスとの親交^{ひだまり}も深かった近衛秀麿も、この作品には多少嘔むところがあったようだ。とにかくなんといってもシュトラウスは当時の世界の大作曲家中の大作曲家。日独の同盟関係があったとはいえ、よくぞ書いてくれたと多くの日本人が感激してしまった。国際的課題もかなり攫えるのではないか。五輪や万博とは位相が違うけれど、これはかなりの大事に違いない。

かくて演奏会の目玉となったシュトラウスの新作の求める管弦楽の編成はというと、梵鐘群を含める、特殊かつ超巨大なものであった。当たり前だが、この作品を十全に、作曲家の要求どおりに演奏できることを大前提として、奉祝演奏会に必要なオーケストラの規模も算定された。それは常識破りの域に達していて、奉祝会がどこかの既成のオーケストラに演奏を依頼すれば済むというものではなかった。

そう、新交響楽団だけでは足りなかったのである。当時の新交響楽団の正式メンバーは

約70名。それに対して奉祝楽曲の要求する人数は倍以上になろう。新交響楽団にエキストラを連れてきて賄^{まかな}う、というのではさまにならない。不自然である。そもそも近衛文麿首相は、戦時に適切な国家総動員体制を確立するためと称する大政翼賛運動の中心的推進者でもあり、ついに大政翼賛会ができたのがいつだったかという、1940年10月だ。「奉祝楽曲」のお披露目の少し前。国家総動員時代には日本楽壇も大同団結だ。奉祝楽曲の演奏会はその象徴であるにこしたことはない。だったら新交響楽団を核とする臨時編成の大交響楽団を組んだらよいのではないか。

1940年12月7日の歌舞伎座のステージに乗ったのは、新交響楽団のほぼ全員だった。が、それよりも多く、よその楽団員たちがいた。オーケストラの名は紀元二千六百年奉祝交響楽団と名づけられた。弦楽5部は24-22-18-16-12。総計92人。木管は4管か5管。サクソフーンなども加わって全部で23人。金管はホルン14、トランペット8、トロンボーン8、チューバ3で合わせて33人。それに打楽器が12人で、ハープは3人。総勢163人。繰り返せばこのうち約70人は新交響楽団員だ。あとは他団体からの選抜である。12月に向けての練習は早くも10月から始まった。指導にあたったのは主に齋藤秀雄である。新交響楽団のチェロ奏者にして指揮も得意にしてきた彼は、ローゼンシュトックに傾倒して、ますます指揮にのめりこみ、新古典主義的芸風を深めて、ローゼンシュトック流にピシバシと、臨時の巨大交響楽団を鍛え上げていった。

本番前日の12月6日まで、練習回数はのべ30回以上になった。でも本番を指揮したのは、立場はあくまでも新交響楽団のチェリストだった齋藤でも、新交響楽団を率いる立場だがナ

チスの支配するドイツとは折り合いの悪いローゼンシュトックでもなかった。イベールは新交響楽団と縁の深い山田耕筰。ヴェレシュは東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）教授で、作曲家だが、欧米への長期留学から帰国後、自作のみならず幅広く指揮もするようになっていた橋本國彦^{くにのこ}。ピッツェッティ^{くないしやう}は宮内省楽部の洋楽の指揮者として招かれていた、作曲家と日本人で、オペラ指揮者といってよいガエターノ・コメリ。そしてシュトラウスは、ナチスの覚えめでたい人として、東京音楽学校にお雇い外国人として赴任^{ふにん}し、主に指揮を教え、作曲もしたヘルムート・フェルマーだった。

「技量は新響、歌うは中響」

ところで、臨時オーケストラのうち、新交響楽団を除く約90人は、いったいどこの楽団の人たちだったのだろうか？

橋本やフェルマーが本番で指揮していることから推測されるように、東京音楽学校の教官主体のオーケストラから30人ほど入っている。この枠で2人の作曲家、安部幸明^{あべこうめい}（チェロを演奏）や山田和男（のちの一雄。ピアノを演奏）もいる。コメリが振っていることから見当がつくように宮内省楽部からも来ているし、あと、日本放送協会東京放送局でのスタジオ仕事を多くこなしている、放送局専属の東京放送管弦楽団の人たちと、軍楽隊出身者を主体として編成された、同じく東京放送局専属^{せいおう}の星櫻吹奏楽団の人たちもいる。この3団体で約30人。これで合わせて60人くらいだ。まだ約30人いなければならない。そのぶんは中央交響楽団からだ。略して中響。セントラル・オーケストラとも呼ばれていた。

このオーケストラは今も存続している。現在の

東京フィルハーモニー交響楽団だ。新交響楽団を追われた近衛秀麿がそのあとすぐ中央交響楽団の音楽監督になるという話が持ち上がり、実現すれば新交響楽団の強力なライヴァルになると噂されたことには、すでに触れている。結局この構想は、近衛がオーケストラに招こうとした、ヴァイオリニストの鈴木鎮一^{しんいち}を中心とする弦楽グループが中響に参加せずと表明したことなどから、流れてしまったのだが。この中央交響楽団とは、いとう呉服店^{ごふく}(のちの松坂屋、現在の大丸松坂屋百貨店)の少年音楽隊を起源とする、もともとは名古屋のオーケストラである。しかし、松坂屋が経営主体から有力な後援者へと退いていく経過もあって、名古屋を地盤にするメリットが次第に不十分となってゆく。ならば、オーケストラの聴衆が名古屋よりずっと多いだろう東京進出を目指すべきだ。そこで近衛を当てにしていたん挫折したが、仕切り直して、1938(昭和13)年の暮れには本拠地を正式に東京に移転した。新たな後援者としてレコード会社の日本ビクターを得た。

この中央交響楽団をよく指揮するようになったのが、日本ビクターで流行歌の作曲家としても活躍していた橋本國彦である。彼は東京音楽学校の教官として、学校の同僚に、彼が滞独中に知り合った作曲家兼指揮者、マンフレート・グルリットを招こうと運動したことがあった。1937(昭和12)年のことだ。クラウド・プリングスハイムの後釜^{あとがま}ということだろう。グルリットは左翼的人物とみなされ、ナチス政権下で音楽活動を制限されて困窮^{こんきゆう}していた。橋本は日本に呼びやすかった。なにしろオペラ指揮者として一流。素晴らしい人事になる！が、彼の読みは甘かった。反ナチス^{おほ}と思しき人物を官立の学校は招きにくなっていた。時代は急激に動いていた。東京音楽学校に雇われたのは、

1940年にシュトラウスの《紀元2600年祝典曲》を初演することにもなるフェルマーだった。

グルリットは出国の大義名分も失い、ドイツにとどまりながら困る一方だった。が、1939年にはなんのはずみか出国を許された。グルリットは橋本を頼って来日してしまう。けれど東京音楽学校にもう口はない。橋本は中央交響楽団を紹介した。楽団は東京に移って細々と仕事をしていたが、定期演奏会を開始するにはいたれていない。ローゼンシュトックと新交響楽団に対抗できる看板がなくては開きようもない。そこにグルリット！渡りに舟！中央交響楽団は歓喜した。東京に移って団員も半ばを入れ替えて基礎能力は上がってきているはず。中央交響楽団はグルリットを1939年の秋に迎え、練習を重ねて、ついに1940年1月、東京での第1回定期演奏会の開催に漕ぎ着けた。場所は歌舞伎座。このときから東京にプロ・オーケストラの定期演奏会が毎月のように競合する時代が訪れた。

「技量は新響、歌うは中響」——そう言った音楽ファンがいたそうな。ローゼンシュトックは1895年生まれ。グルリットは1890年生まれ。あまり違わないようにも見える。が、世代論は2人をしっかり分け隔てられるのだ。第1次世界大戦が始まった1914年に片や19歳で片や24歳。音楽観がこれからできあがるか、もうある程度できあがっていたか——2人の分水嶺^{ぶんすいりょう}だ。おまけにグルリットの指揮の師はカール・ムックで、作曲の師はワーグナー直系のフンパーディンクだ。グルリットは第1次世界大戦前のロマン派の感性をその後も伝える人となり、第1次世界大戦後のハードボイルドな感覚を基調とするローゼンシュトックとは何から何まで対照的であった。東京のコンサート・ゴアアはそれなりの贅沢^{ぜいたく}を味わえるようになったのだ。1940年を劃期^{かつき}として。ほんの何年かだけだったけれど。

とにかく、毎月定期演奏会を開くプロ・オーケストラは日本では新交響楽団だけという独占的な性格はここに崩れた。新交響楽団は初めてライヴアルと呼べるものを得たのである。そしてナチスに追われた2人の指揮者は、東京楽壇の牽引者だというのに、皇紀2600年の師走を

飾ったシュトラウス・フィーバーの際には、関わらせられない人物として、すっかり蚊帳の外なのだった。さまざまな矛盾を適当にごまかしながら、戦時の音楽界は表向きの賑々しさを保っていたのである。

文 | 片山杜秀 (かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2024年11月1日付で水戸芸術館館長に就任。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大衆必易』ほか著書多数。

WEB連載

「NHK交響楽団のあゆみ」

2026年のN響創立100年に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽ジャーナリスト・編集者の岩野裕一氏。

終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。「フィルハーモニー」連載「N響百年史」とあわせてお楽しみください。



<https://www.nhkso.or.jp/news/index.html>

「N響百年史」過去の連載がPDFでご覧いただけます

N響ホームページでは『フィルハーモニー』の一部バックナンバーをPDFで公開しています。

片山杜秀氏による「N響百年史」連載は、第1回（2018年11月号）、第2回（2019年2月号）、第3回（2019年5月号）、第4回（2019年6月号）、以降は毎号掲載されています。



<https://www.nhkso.or.jp/about/archives/philharmony/index.html>

2025年6月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

ここまで年齢のかけ離れた指揮者が続けて登場するのも珍しい。フェドセーエフは1932年生まれ、ペルトコスキは2000年生まれで、その差は実に68歳。1965年生まれのメナは、ちょうどその中間の世代にあたる。3人が指揮する曲は、チャイコフスキー最後の交響曲、青年時代のマーラーの記念碑、そしてブルックナー中期の力作と、それぞれのキャリアに呼応している。興味深い対比を味わうことができそうだ。

**奏者の自発性を引き出し、
自然な流れを生み出す
“フェドセーエフ・マジック”**

[Aプログラム] はロシアの大御所、ウラディーミル・フェドセーエフ。2023年秋に予定していた共演は、残念ながら流れてしまった。今回こそ実現を願うばかりである。

チャイコフスキー《交響曲第6番》をN響と演奏するのは、意外にも初めてのこと。過去の録音を聴くと、飾り気なく穏やかな人柄そのままに、ゆったりした時間が流れていく。奏者の自発性を引き出して、自然な流れを生み出す“フェドセーエフ・マジック”に、誰もが魅了されるに違いない。

ラフマニノフ《パガニーニの主題による狂詩曲》でソロを務めるのは、ユリアンナ・アヴデーエワ。話題となったショパン国際コンクール優

勝から、早くも15年が経つ。祖国ロシアの定番の名曲で、情と知のバランスが取れた名演を聴かせてくれるはずだ。

リムスキー・コルサコフ《歌劇「5月の夜」序曲》には、民謡の素材がふんだんに取り入れられている。かつてロシアの民俗楽団を率いていたマエストロにとって、この種の曲はまさにお手の物。初夏のプログラムを意識したオープニングである。

**メナが師・チェリビダッケから受け継ぐ
十八番 ブルックナー《第6番》**

[Bプログラム] はファンホ・メナ。過去2回は祖国スペインの曲が中心だったが、彼はドイツ音楽も得意にしている。特に師匠チェリビダッケの十八番でもあったブルックナー《交響曲第6番》は、最も自信のあるレパートリーと言ってよい。あまり演奏されない《第6番》だが、明暗の対照がはっきりしたこの曲の構造が、彼の個性に合っているのかもしれない。鮮やかな原色の絵画を思わせるようなメナのアプローチは、遅いテンポを貫きながら荘厳な山場を築いていく師のチェリビダッケと、だいたい趣が異なっている。だがそれでいて、金管の響かせ方など、どこことなくチェリビダッケのDNAが感じられるのは面白い。

イベール《フルート協奏曲》は、20世紀に書

かれたこのジャンルの最高傑作のひとつ。気品のある透明感を保ちながら、オケ・パートのボリュームも十分。軽やかに疾走する第1、第3楽章と、しっとり叙情的な第2楽章の明快なコントラストは、メナのブルックナー解釈に一脈通じるかのようだ。ウィーン・フィルのソロ奏者、カール・ハインツ・シュッツが8年ぶりに共演する。

**2000年生まれ若き巨匠が、
マーラー20代の野心作に挑む**

〔Cプログラム〕は、飛ぶ鳥を落とす勢いの若手、タルモ・ベルトコスキ。ヨーロッパの主要楽団から矢継ぎ早にタイトル指揮者として迎えられ、まもなくトゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団の音楽監督に就く。日本のオーケストラとの初共演は、国内外の注目を集める

だろう。マーラーが20代で書いた《交響曲第1番》には、若者らしい野心がみなぎる。期待の指揮者の日本デビューにふさわしい曲ではないかと思う。

7歳近くで楽器を始めたダニエル・ロザコヴィッチは、たちまち腕を上げ、2か月後にはリサイタルを開いたというから恐れ入る。既に腕の達者な若者という域を超えて、大家の風格すら漂っている。コルンゴルト《ヴァイオリン協奏曲》は、20世紀半ばの作曲。当初、時代遅れの産物とみなされたが、名手ハイフェッツが好んで取り上げたことから、次第に人気が高まっていった。ハイフェッツに感化されたロザコヴィッチが、同世代の親友と共にスリングな掛け合いを演じるだろう。

〔西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹〕

A 6/7 土
6:00pm
6/8 日
2:00pm

NHKホール

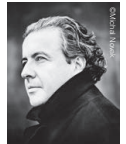
リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲
ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*
チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」
指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ
ピアノ：ユリアンナ・アウデーエワ*



B 6/12 木
7:00pm
6/13 金
7:00pm

サントリーホール

イベール／フルート協奏曲
ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調
指揮：ファン・ホ・メナ
フルート：カール・ハインツ・シュッツ



C 6/20 金
7:00pm
6/21 土
2:00pm

NHKホール

コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」
指揮：タルモ・ベルトコスキ
ヴァイオリン：ダニエル・ロザコヴィッチ



チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！（一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります）

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	発売中(Cプログラムのみ)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)
シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム[Spring] (2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	販売終了
	12・1・2月	販売終了
	4・5・6月	5・6月発売中／4月販売終了

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。
詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要です。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大
2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大しました

定期会員券の対象席種を拡大
「S席～D席の全席種」に拡大しました

お申し込み
WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm/定休日：土・日・祝日
●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター
最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」から登録ください。

2024-25定期公演プログラム

A	NHKホール		B		サントリーホール		C		NHKホール	
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm					
2025 05	A	第2036回 4/26土 6:00pm 4/27日 2:00pm ※5月定期公演Aプログラムは 4月に開催いたします。 NHKホール	ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露 N響ヨーロッパ公演2025 プログラム マーラー／交響曲 第3番 二短調 指揮:ファビオ・ルイージ メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ 女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団				一般 ユースチケット S ¥15,000 S ¥7,000 A ¥12,500 A ¥6,000 B ¥10,000 B ¥5,000 C ¥8,000 C ¥4,000 D ¥6,500 D ¥3,000 E ¥4,500 E ¥2,000			
	B	第2037回 5/1木 7:00pm 5/2金 7:00pm サントリーホール	札幌あう“生と死”を超克し その彼方の光へ N響ヨーロッパ公演2025 プログラム ベルク／ヴァイオリン協奏曲 マーラー／交響曲 第4番ト長調* 指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*				一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750			
C	第2038回 5/30金 7:00pm 5/31土 2:00pm NHKホール	オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス! N響定期初登場、藤田真央にも注目! シューベルト／「ロザムンデ」序曲 ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25* R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲 R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲 指揮:ギエドレ・シュレキーテ ピアノ:藤田真央*				一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000				
	A	第2039回 6/7土 6:00pm 6/8日 2:00pm NHKホール	巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲 リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲 ラフマニノフ／バガニーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」 指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*				一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000			
2025 06	B	第2040回 6/12木 7:00pm 6/13金 7:00pm サントリーホール	チェリビダッケの直弟子 メナのブルックナー《第6番》 イベル／フルート協奏曲 ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調 指揮:フアンホ・メナ フルート:カール・ハインツ・シュツツ				一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750			
	C	第2041回 6/20金 7:00pm 6/21土 2:00pm NHKホール	2000年生まれの超新星 ベルトコススキのマーラー《巨人》 コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」 指揮:タルモ・ベルトコススキ ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ				一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000			

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

最高峰の指揮者、
ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。
オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール

± 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2025

09

September

第2042回

9/13 ± 6:00pm

9/14 日 2:00pm

ルイーザがシーズン開幕に満を持して
ライフワークに臨む

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調
作品73「皇帝」
フランツ・シュミット／交響曲 第4番 ハ長調
指揮：ファビオ・ルイーザ
ピアノ：イェフィム・プロンフマン



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025

10

October

第2046回

10/18 ± 6:00pm

10/19 日 2:00pm

マエストロが祈りを込めて贈る 2つの合唱付き交響曲

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲
メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ソプラノ：クリスティーナ・ランツハマー*
メゾ・ソプラノ：マリ・ヘンリエッテ・ラインホルト*
テノール：ティルマン・リヒディ*
合唱：スウェーデン放送合唱団



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2025

11

November

第2048回

11/8 ± 6:00pm

11/9 日 2:00pm

デュトワ、十八番のメシアンとホルストを携え
8年振りに定期公演に登場

メシアン／神の現存の3つの小典礼*
ホルスト／組曲「惑星」作品32
指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：小菅 優*
オンド・マルトノ：太矢素子*
女声合唱：東京オペラシンガーズ



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

Winter

2025

12

December

第2051回

11/29 ± 6:00pm

11/30 日 2:00pm

《人魚姫》を貫く
自己喪失と再生の物語

ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調
作品77
ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」
指揮：ファビオ・ルイーザ
ヴァイオリン：レオニダス・カヴァコス



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

※12月定期公演Aプログラムは
11月に開催いたします。

2026

01 January

第2054回

1/17 土 6:00pm

1/18 日 2:00pm

ソヒエフ、満を持して
N響でマーラーを初披露

マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

指揮:トウガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

02 February

第2057回

2/7 土 6:00pm

2/8 日 2:00pm

名門歌劇場で存在感を放つ ジョルダンのワーグナー

シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」

—「ジークフリートのラインの旅」

「ジークフリートの葬送行進曲」

「ブリュンヒルデの自己犠牲」*

指揮:フィリップ・ジョルダン

ソプラノ:タマラ・ウィルソン*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2026

04 April

第2060回

4/11 土 6:00pm

4/12 日 2:00pm

ブルックナーの絶筆に
孤高の中に屹立する精神を見る

ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1

ブルックナー／交響曲 第9番 二短調

指揮:ファビオ・ルイージ

チェロ:ヤン・フォグラール



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

05 May

第2064回

5/23 土 6:00pm

5/24 日 2:00pm

ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム

ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲

イ短調 作品102

ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番

ト短調 作品25

指揮:ミハエル・ザンデルリンク

ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026

06 June

第2067回

6/13 土 6:00pm

6/14 日 2:00pm

ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン
待望のN響初登場

ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスター・ジーンガー」

前奏曲

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453

バルトーク／管弦楽のための協奏曲

指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン

ピアノ:コンラッド・タオ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。
魅力あふれるソリストたちとの共演にも心躍る。

サントリーホール

木 7:00pm 金 7:00pm

Autumn

2025

09

September

第2043回

9/18

木

7:00pm

ルイージが浮き彫りにする
《イタリア》に刻まれた「光と陰」

武満 徹／3つの映画音楽

ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

10

October

第2045回

10/9

木

7:00pm

ブロムシュテットが慈しむ
気品に満ちた北欧の傑作たち

グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40
ニルセン／フルート協奏曲
シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
フルート:セバスティアン・ジャコー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

11

November

第2050回

11/20

木

7:00pm

大きく羽ばたく俊英が
得意のドイツ・プログラムで再登場

シューマン／「マンフレッド」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:ラファエル・バヤレ
ピアノ:エマニュエル・アックス



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

11/21

金

7:00pm

Winter

2025

12

December

第2052回

12/4

木

7:00pm

オーケストラと大オルガンが
名ホールで絢爛に双鳴するひととき

藤倉 大／管弦楽のためのオーシャン・プレイヤー
～ビエール・ブルーゼスの思い出に～(2025)
[NHK交響楽団委嘱作品／世界初演]

フランク／交響的変奏曲＊

ザン・ザーンズ／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:トム・ボロー＊



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

12/5

金

7:00pm

2026

01 January

第2056回

1/29 木 7:00pm

1/30 金 7:00pm

お家芸のプロコフィエフ《第5番》を
13年振りにN響で指揮

ムソルグスキー（ショスタコヴィチ編）／
歌劇「ホヴァンシチナ」ー前奏曲「モスクワ川の夜明け」
ショスタコヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 ヘ長調 作品102
プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮：トウガン・ノヒエフ
ピアノ：松田華音



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026

02 February

第2059回

2/19 木 7:00pm

2/20 金 7:00pm

待望の再登場！フルシヤの
ドヴォルザーク＆ブラームス

ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
ブラームス／セレナード 第1番 二長調 作品11

指揮：ヤクブ・フルシヤ
ヴァイオリン：ヨゼフ・シュバチェク



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Spring

2026

04 April

第2061回

4/16 木 7:00pm

4/17 金 7:00pm

モーツァルトとマーラーに徹底する
絶対美の深淵に触れる

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

指揮：ファビオ・ルイージ
クラリネット：松本健司（N響首席クラリネット奏者）



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026

05 May

第2063回

5/14 木 7:00pm

5/15 金 7:00pm

「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ
そして1930年代日独作品の諸相

創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」
ハルトマン／葬送協奏曲＊
須賀田磯太郎／交響的序曲 作品6
ヒンデミット／交響曲「画家マチス」

指揮：山田和樹 ヴァイオリン：キム・スーヤン＊



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026

06 June

第2066回

6/4 木 7:00pm

6/5 金 7:00pm

ドゥーネーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選

オネゲル／交響詩「夏の牧歌」
ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7
イベール／寄港地
ドビュッシー／交響詩「海」

指揮：ステファヌ・ドゥーネーヴ
メゾ・ソプラノ：ガエル・アルケーズ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

（以上、すべて税込）

年間会員券（9回）	一般	S ¥91,800	A ¥76,500	B ¥61,200	C ¥49,725	D ¥42,075
	ユースチケット	S ¥45,900	A ¥38,250	B ¥30,600	C ¥24,858	D ¥21,033

※ Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

豪華なマエストロ、ソリストたちが
王道の名曲でその個性を輝かせる。
今もっとも旬なアーティストの登場にも期待。

NHKホール

金 7:00pm 土 2:00pm

Autumn

2025

09

September

第2044回

9/26

金

7:00pm

吹米メジャーオーケを席巻する
情熱の指揮者が、響初登場

マーラー／こどもの不思議な角笛―「ラインの伝説」＊
「トランペットが美しく鳴り響くところ」＊「浮世の生活」＊
「天上の生活」＊「原光」＊
シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22

9/27

土

2:00pm

指揮：ライアン・バンクロフト
バリトン：トマス・ハンブソン＊



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2025

10

October

第2047回

10/24

金

7:00pm

巨匠と名ピアニストの飽くなき探究心が拓く
新たなブラームスの地平

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

10/25

土

2:00pm

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：レイフ・オヴェ・アンスネス



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2025

11

November

第2049回

11/14

金

7:00pm

当世随一の解釈者のタクトでラヴェルを味わい尽くす

ラヴェル生誕150年

ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル／組曲「クープランの墓」
ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)＊

11/15

土

2:00pm

指揮：シャルル・デュワ
合唱：二期会合唱団＊



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

Winter

2025

12

December

第2053回

12/12

金

7:00pm

ニルセン最高峰の交響曲を
ルイージ人魂の指揮で味わう

ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 小短調 作品11
または第2番 ヘ短調 作品21
ニルセン／交響曲 第4番 作品29「不滅」

12/13

土

2:00pm

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

01 January

第2055回

1/23 金 7:00pm

1/24 土 2:00pm

夢幻と高揚に誘う フランス・ロシアのナラティブな作品たち

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
デュティユー／チェロ協奏曲「遥かなる遠い国へ」
リムスキー＝コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57
ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

指揮:トゥガン・ソヒエフ
チェロ:上野通明



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

02 February

第2058回

2/13 金 7:00pm

2/14 土 2:00pm

創立100年に問う N響設立者・近衛の《展覧会の絵》

創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲
フンメル／トランペット協奏曲 ホルスト
ムソルグスキー（近衛秀麿編）／組曲「展覧会の絵」

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ
トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者)



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2026

04 April

第2062回

4/24 金 7:00pm

4/25 土 2:00pm

下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅

創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26
伊福部 昭／交響譚詩
ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」
—「4つの海の間奏曲」作品33a

指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026

05 May

第2065回

5/29 金 7:00pm

5/30 土 2:00pm

旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす
謎多きショスタコーヴィチ《第4番》の真価

ヴァスクス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品
[タイトル未定／日本初演]
ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43

指揮:アンドリス・ボーガ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026

06 June

第2068回

6/19 金 7:00pm

6/20 土 2:00pm

尾高のリズムと相性抜群の北国の名作たち
HIMARI、N響定期に初登場

シベリウス／アンダンテ・フェスティエヴォ
シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44

指揮:尾高忠明
ヴァイオリン:HIMARI



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

チケットのご案内(定期公演 2025年9月～2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！（一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります）

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券 (Autumn)	2025年7月6日[日] (定期会員先行) / 2025年7月13日[日] (一般)
	シーズン会員券 (Winter)	2025年10月14日[火] (定期会員先行) / 2025年10月17日[金] (一般)
	シーズン会員券 (Spring)	2026年2月10日[火] (定期会員先行) / 2026年2月14日[土] (一般)

料金 (税込)

年間会員券 (9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	Cプログラム	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	Cプログラム	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)
シーズン会員券 (3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	Cプログラム	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)
						¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2025年7月23日[水] (定期会員先行) / 2025年7月27日[日] (一般)
	12・1・2月	2025年10月22日[水] (定期会員先行) / 2025年10月26日[日] (一般)
	4・5・6月	2026年2月19日[木] (定期会員先行) / 2026年2月23日[月・祝] (一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm
定休日：土・日・祝日



- 東京都内での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

特別公演

6/26(木) 7:00pm | Music Tomorrow 2025

東京オペラシティ コンサートホール

指揮: イェルク・ヴィトマン ヴァイオリン: 辻 彩奈 トランペット: ホーカン・ハーデンベルガー

権代敦彦 / 時と永遠を結ぶ絃—ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193 (2023) [第72回「尾高賞」受賞作品]

ヴィトマン / 死の舞踏 (2022) [日本初演]

ヴィトマン / 楽園へ (迷宮 VI) —トランペットとオーケストラのための (2021) [日本初演]

料金 (税込): 一般 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

ユースチケット (29歳以下) | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売中

主催: NHK / NHK交響楽団 共催: (公財) 東京オペラシティ文化財団

助成: 芸術文化振興基金 / (公財) 三菱UFJ信託芸術文化財団 / (公財) アフィニス文化財団



芸術文化振興基金助成事業



6/29(日) 4:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHKホール

指揮: 平石章人 クラリネット: 松本健司 (N響首席クラリネット奏者) ナビゲーター: 大林奈津子

ワーグナー / 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 (抜粋) (6月Aプログラム)

ツェムリンスキー / 交響詩「人魚姫」—第2楽章 (抜粋) (12月Aプログラム)

グリーグ / 組曲「ホルベアの時代から」—「ガヴォット」 (10月Bプログラム)

シベリウス / 交響詩「4つの伝説」—「レンミンケイネンの帰郷」 (9月Cプログラム)

モーツァルト / クラリネット協奏曲—第2楽章 (4月Bプログラム)

外山雄三 / 管弦楽のためのディヴェルティメント—第3楽章 (4月Cプログラム)

ストラヴィンスキー / バレエ組曲「火の鳥」 (1919年版)—「王女たちの踊り」 (1月Cプログラム)

ホルスト / 組曲「惑星」—「木星」 (11月Aプログラム)

終演後のお楽しみ! N響メンバーのトークコーナー

料金 (税込): 一般2,000円 / 定期会員1,700円 / ユースチケット (29歳以下) 1,000円

／ウェルカム・ペアチケット (2枚1組) 3,200円

チケット発売中

主催: NHK / NHK交響楽団

7/18(金) 7:00pm | N響「夏」2025

NHK ホール

指揮:ダーヴィト・アフカム ピアノ:マルティン・ヘルムヒェン

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(月)10:00am

一般 | 5月16日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:岩谷産業株式会社

8/3(日) 3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHK ホール

指揮:松本宗利 音 ピアノ:阪田知樹* ナビゲーター:一龍斎貞鏡

[オーケストラとゆく ちょっとふしぎな夏の冒険]

バーンスタイン/歌劇「キャンディード」序曲

グリーグ/劇音楽「ペール・ギュント」〈抜粋・講談つき〉

ガーシュウィン/ラプソディ・イン・ブルー*

メンデルスゾーン/交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」—第2楽章

チャイコフスキー/イタリヤ奇想曲 作品45〈抜粋〉

ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」—「ジークフリートのラインの旅」

料金(税込):一般 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,000円 C席1,500円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円

小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(月)10:00am

一般 | 5月16日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

協力:株式会社グローバル/グローバル管楽器技術学院/株式会社ポケモン

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm

定休日:土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am~開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

5/5[月祝] 5:00pm | **NHK交響楽団**
ファビオ・ルイージ[首席指揮者] リーズ・ドウ・ラ・サール[ピアノ]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:リーズ・ドウ・ラ・サール

武満徹／3つの映画音楽

グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問合せ:ミューズチケットカウンター TEL(04)2998-7777

7/5[土] 5:00pm | **厚木市文化会館リニューアルオープン・厚木市制 70周年記念事業**
NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館

指揮:川瀬賢太郎 バンドネオン:三浦一馬

マルケス／ダンソン 第2番

ピアノ／バンドネオン協奏曲「アコンカガ」

ヒナステラ／バレエ組曲「エスタンシア」作品8a

バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問合せ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL(046)224-9999

7/10[木] 7:00pm | **東京国際指揮者コンクール**
入賞デビューコンサート 指揮コン×N響

サントリーホール

ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)(指揮:吉崎理乃)

ガーシュウィン／バリのアメリカ人(指揮:ライリー・コート・ウッド)

ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68(指揮:コルニリオス・ミハイリディス)

主催:MIN-ON お問合せ:MIN-ON インフォメーションセンター TEL(03)3226-9999

7/13[日] 3:30pm | **N響ゴールデン・クラシック 2025 夏編**

府中の森芸術劇場 どりーむホール

指揮:熊倉 優 ピアノ:若林 顕

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:MIYAZAWA & Co. お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

7/21^月祝 4:30pm | NHK交響楽団演奏会 広島公演

上野学園ホール〈広島県立文化芸術ホール〉

指揮:ダーヴィト・アフカム ピアノ:マルティン・ヘルムヒエン

シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催:NHK広島放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

7/27^日 3:00pm | NHK交響楽団 姫路特別演奏会

アクリエひめじ 大ホール

指揮:ヴァレリー・ボリャンスキー ピアノ:エヴァ・ゲヴォルギヤン

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:(公財)姫路市文化国際交流財団 お問い合わせ:姫路市文化国際交流財団 制作チーム TEL(079)297-1141

8/4^日 3:00pm | フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2025

ミュージア川崎シンフォニーホール

指揮:松本宗利音 ピアノ:阪田知樹★

チャイコフスキー／イタリア奇想曲 作品45

ガーシュウィン／ラプソディー・イン・ブルー★

メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」

主催:川崎市／ミュージア川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問い合わせ:ミュージア川崎シンフォニーホール TEL(044)520-0200

8/22^金 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 仙台公演

仙台銀行ホール イズミティ21 大ホール

指揮:トン・コーブマン ヴァイオリン:佐藤俊介

モーツァルト／セレナード 二長調 K. 239「セレナータ・ノットウルナ」

モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K. 218

モーツァルト／交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催:NHK仙台放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/23^土 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 盛岡公演

盛岡市民文化ホール 大ホール

出演者・曲目は8月22日と同じ

主催:NHK盛岡放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/24^日 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 弘前公演

弘前市民会館 大ホール

出演者・曲目は8月22日と同じ

主催:NHK青森放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

9/2^水 7:00pm | Storia IV

サントリーホール

指揮:広上淳一 ヴァイオリン:服部百音
プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19
ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

主催・お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

9/6^土 3:00pm | NHK交響楽団 角田鋼亮(指揮) 中野りな(ヴァイオリン)

埼玉会館 大ホール

指揮:角田鋼亮 ヴァイオリン:中野りな
モーツァルト／歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲
チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問合せ:SAF チケットセンター TEL(0570)064-939

9/7^日 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター 大ホール

出演者・曲目は9月6日と同じ

主催:(公財)郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)
お問合せ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL(024)934-2288

9/21^日 3:00pm | 第27回 NHK交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)・文化ホール

指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス
武満 徹／3つの映画音楽
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

主催:(公財)足利市みどり文化スポーツ財団 お問合せ:あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ) TEL(0284)72-8511

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

7/6^日 3:30pm

出演者・曲目は7月5日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

海外公演

ヨーロッパ公演2025 | 指揮：ファビオ・ルイージ (NHK交響楽団 首席指揮者)

プログラムA	マーラー／交響曲 第3番 二短調	メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ 女声合唱:オランダ放送合唱団 児童合唱:オランダ児童合唱団
プログラムB	マーラー／こどもの不思議な角笛―「トランペットが美しく鳴り響くところ」* 「浮世の生活」*「原光」*「死んだ鼓手」*「少年鼓手」* マーラー／交響曲 第4番 長調 **	バリトン:マティアス・ゲルネ* ソプラノ:イン・ファン**
プログラムC	グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 マーラー／交響曲 第4番 長調 *	ピアノ:ルドルフ・ブフビンダー ソプラノ:イン・ファン*
プログラムD	武満 徹／3つの映画音楽 ベルク／ヴァイオリン協奏曲 ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98	ヴァイオリン:諏訪内晶子
プログラムE	ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1 マーラー／交響曲 第4番 長調 *	チェロ:ヤン・フォークラー ソプラノ:イン・ファン*

2025	5/9金 8:00pm アントワープ(ベルギー)	エリザベト王妃ホール[プログラムC]
	5/11日 8:15pm アムステルダム(オランダ) 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演	コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムA]
	5/12月 8:15pm アムステルダム(オランダ) 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演	コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムB]
	5/14火 7:30pm ウィーン(オーストリア)	ウィーン・コンツェルトハウス 大ホール[プログラムC]
	5/15水 8:00pm ブラハ(チェコ) 「ブラハの春 音楽祭」参加公演	ルドルフィヌム ドヴォルザーク・ホール[プログラムD]
	5/17土 7:30pm ドレスデン(ドイツ) 「ドレスデン音楽祭」参加公演	聖母教会[プログラムD]
	5/18日 6:00pm ドレスデン(ドイツ) 「ドレスデン音楽祭」参加公演	文化宮殿 コンサートホール[プログラムE]
	5/20火 7:30pm インスブルック(オーストリア)	コンGRESS・インスブルック チロル・ホール[プログラムD]



[助成] 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(国際芸術交流))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

[協賛]



曲目解説執筆者・歌詞対訳者

太田峰夫(おおた みねお)

京都市立芸術大学教授。おもな研究領域は20世紀ハンガリー音楽史、とりわけバルトークの音楽。音楽専門誌への寄稿のほか、著書に『バルトーク 音楽のプリミティヴィズム』、共訳書に『バルトーク音楽論選』、論文に「音楽のナショナリズムとその周囲——ヨーゼフ・ヨアヒムとハンガリーとの関係を中心に」など。

小室敬幸(こむろ たかゆき)

音楽ライター。東京音楽大学付属高等学校および同大学で作曲を、同大学院で音楽学を専攻。クラシックやジャズ、映画音楽を中心に楽曲解説の寄稿やインタビュー取材、ラジオ出演など幅広く活動。共著書に『聴かずぎらいのための吹奏楽入門』『コモンズ:スコラ vol. 18 ピアノへの旅』など。

山本まり子(やまもと まりこ)

聖徳大学音楽学部教授、早稲田大学オペラ／音楽劇研究所招聘研究員。博士(人文科学)。マーラーを中心に、ドイツ語による声楽作品とその周辺を研究。共著書に『キーワードで読む オペラ／音楽劇 研究ハンドブック』『超域する異界』など、論文に「聖徳大学所蔵G. マーラーの自筆書簡(1889年)と当時の彼の音楽活動」など。

(五十音順、敬称略)

Information

計報

当団元常務理事(1999年7月入団)で団友の鳴嶋郁夫(なるしま いくお)氏が、2025年1月30日に逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック

FM 7:35~9:15pm

※2025年度から放送時間が変更になりました。

N響演奏会

FM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00~9:30pm

月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHK プラス」(テレビ)や「らじる★らじる」(ラジオ)で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小宮 暁
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHK アート 代表取締役社長 平田恭佐
・ AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (一財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エデュケーションal 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博		・ (学)NHK 学園 理事長 等々力 健

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 神田真介
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクト
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(会)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノ
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治

- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポブリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中本光子
- ・日興アセットマネジメント(株)
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野業穂子
- ・日本カイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之
- ・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)バルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)ビー・ジー・エム
代表取締役 | 山川慎一郎
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 櫛田龍治
- ・古川宣一
- ・ペプテドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之
- ・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舩曳真一郎

- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
 - ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山大一也
 - ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
 - ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 近藤明人
 - ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
 - ・三橋洋之
 - ・三原穂積
 - ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
 - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
 - ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
 - ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
 - ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
 - ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
 - ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
 - ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
 - ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
 - ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
 - ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
 - ・米澤文彦
 - ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
 - ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 貞広貴志
 - ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井 徹
 - ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 白鳥正美
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
東 克己
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田渕浩記
 - ・YCC(株)
代表取締役 | 中山武之
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『「第9」演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
Ayumu Iizuka
○ Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Taiga Tojo
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
Hiroyuki Matsuda
○ Haruhiko Mimata
Nana Miyagawa
○ Tsutomu Yamagishi
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Toshiyuki Kimata
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
Ryuto Murao
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
○ Masamichi Yokoshima
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda
* Reika Shimizu
* Yui Yuhara

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
* Eri Kuribayashi
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
* Shuhei Nakamura
Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
* Shusuke Ouchi
Yuki Sato
Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga

Librarian

- Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, * Intern)

PROGRAM	
A	Concert No.2036
	NHK Hall
	April
	26(Sat) 6:00pm 27(Sun) 2:00pm
conductor	Fabio Luisi
mezzo soprano	Olesya Petrova
female chorus	Tokyo Opera Singers (Junya Nakata, chorus master)
children chorus	NHK Tokyo Children's Chorus (Noriko Kaneda, children chorus master)
concertmaster	Kota Nagahara

The Program Scheduled to be Performed in
NHKSO Europe Tour 2025

Gustav Mahler
Symphony No. 3 D Minor [100']

- I Kräftig. Entschieden
- II Tempo di Menuetto. Sehr mässig
- III Comodo. Scherzando. Ohne Hast
- IV Sehr langsam. Misterioso. Durchaus *ppp*
- V Lustig im Tempo und keck im Ausdruck
- VI Langsam. Ruhevoll. Empfunden

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Fabio Luisi, conductor



©Yuusaku Miyazaki/SECC

Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001, and in September 2022 he became Chief Conductor of the orchestra. He conducted Verdi's *Requiem* in the concert to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* to commemorate

the orchestra's 2000th subscription concert in December 2023. These two monumental performances have brought him great success. He has presented works of German and Austrian composers such as Beethoven, Brahms, Bruckner and R. Strauss as well as those of Franck and Saint-Saëns, Francophone composers, and with his conducting style full of passion and poetic sentiment, has captured the hearts of many of audience members. In August 2024, he led the orchestra's Taiwanese tour, and then will also lead a European tour in May 2025, which has been scheduled in conjunction with the Mahler Festival at The Concertgebouw, Amsterdam, the Prague Spring Festival and the Dresdner Musikfestspiele to which the NHK Symphony Orchestra has been invited.

He was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande and Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Royal Concertgebouw Orchestra, and the Saito Kinen Orchestra, while also conducting operas at world's major opera houses. Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera won Grammy awards. In May 2025, Bruckner's Symphony No. 8 (1st version), which is his first CD with the NHK Symphony Orchestra, will be released.

Olesya Petrova, mezzo soprano



©Andrey Pavlenko

Olesya Petrova is a Russian mezzo-soprano who sings in a powerful and intense voice. She was born in Leningrad, and graduated from the St. Petersburg State Conservatory. She won 2nd prize at the 13th Tchaikovsky International Competition (vocal, female section) in 2007, and the 1st prize at the 2nd Paris Opera Competition in 2012. From 2007 to 2016, she was engaged as a soloist of the St. Petersburg Conservatory

Opera and Ballet Theatre, while making her debut at the Metropolitan Opera singing the role of Madelon in *Andrea Chénier* in 2014. Since 2016, as a soloist at the Mikhailovsky Theatre in St. Petersburg, she has sung the roles of Ulrica in *Un ballo in maschera*, the Countess in *The Queen of Spades*, and Amneris in *Aida*. Until now, the opera houses she has appeared at include the Deutsche Oper Berlin, the Opernhaus Zürich, the Staatsoper Hamburg, and the Teatro Real in Madrid. She has been invited to the Arena di Verona Festival on a regular basis since 2017, made her debut at the Bolshoi Theatre in 2018 singing the role of Polina in *The Queen of Spades*, and at the Royal Opera House, Covent Garden in 2023, with the role of Amneris.

She is also actively appearing in concerts. With the NHK Symphony Orchestra under Fabio Luisi, she previously sang Verdi *Requiem* in September 2022, Mahler's *Sinfonie der Tausend* in December 2023, and is expected to sing with the orchestra in its European tour in 2025. In her performance in the coming subscription concert, she will surely illustrate Mahler's world with her nuanced, emotionally-rich singing.

Tokyo Opera Singers, female chorus

Tokyo Opera Singers was formed in 1992 by mid-career and young vocalists active in Tokyo in response to the late Seiji Ozawa's request to establish a world-class chorus group in this country. From the year of the foundation, the group has performed at the Saito Kinen Festival Matsumoto (Presently called Seiji Ozawa Matsumoto Festival), and since 2004, consistently appeared at the Spring Festival in Tokyo while working with visiting opera companies and orchestras, including the Wiener Philharmoniker (under Simon Rattle and Seiji Ozawa), the Chicago Symphony Orchestra (under Riccardo Muti), and the Bayerische Staatsoper (under Wolfgang Sawallisch). The group also enjoys high artistic evaluation overseas, and has appeared in the Edinburgh International Festival (1999), the China Shanghai International Arts Festival (2018), the Shanghai Symphony Orchestra Concert (2019), and "Meet in Beijing" International Arts Festival (2020).

Since its first collaboration with the NHK Symphony Orchestra in 2009 singing in the oratorio *The Creation*, it has worked with the orchestra in many occasions, including the orchestra's year-end Beethoven 9th concerts and the Wagner series in the Spring Festival of Tokyo since its first year (2010). At the time of the orchestra's concert of *Faust Symphony* conducted by Fabio Luisi in December 2024, Tokyo Opera Singers' male chorus sung magnificently.

NHK Tokyo Children's Chorus, children chorus

NHK Tokyo Children's Chorus (formerly known as Tokyo Broadcasting Children's Chorus Group), formed in March 1952 aiming to enrich NHK's education and children's programs for the healthy growth of the minds and spirits of children, performs with major Japanese orchestras and engages in exchange projects with overseas chorus groups in addition to its appearances in NHK's broadcasts. The chorus also introduces works which it has commissioned Japanese composers to write to Japanese and overseas audiences. In 2022, it marked the 70th anniversary of its foundation.

The chorus has won many prizes in competitions at home and abroad, including 1st prize in the children's category of the Centennial of Zoltán Kodály's Birth Competition and the grand prix in the competition's general category. In 2009, it worked with the NHK Symphony Orchestra in the concert to celebrate the 50th anniversary of the marriage of the Emperor and Empress, and the 20th anniversary of the Emperor's enthronement. It also performs in operatic works staged at New National Theatre, and participated in Royal Opera's *Turandot* on its Japan tour in 2024. NHK Tokyo Children's Chorus appeared in the NHK Symphony Orchestra's subscription concert for the first time in November 1971, singing in *La damnation de Faust* under Jean Fournet. And in recent years, it sang in Tchaikovsky's ballet music *The Nutcracker* in December 2018, and in Mahler's *Symphonie der Tausend* in December 2023 with the orchestra.

[Olesya Petrova, Tokyo Opera Singers, NHK Tokyo Children's Chorus by Junko Shibatsuji, music critic]

Program Note | Kumiko Nishi

Gustav Mahler (1860–1911)

Symphony No. 3 D Minor

The NHK Symphony Orchestra led by Fabio Luisi will soon be the first Asian orchestra to appear at the famed Mahler Festival held in Amsterdam's Concertgebouw hall, performing the composer's Symphonies No. 3 and No. 4 (on May 11th and 12th). The Netherlands' capital that Mahler affectionately called "my second music homeland," always welcomed his performances and works since he debuted there in 1903 conducting his No. 3 at the invitation of Willem Mengelberg, then the Concertgebouw Orchestra's Principal Conductor.

Born into a Jewish family in Kalischt, Bohemia (in the Austrian Empire), Mahler was reputed above all, a distinguished conductor during his lifetime. The future Director of the Vienna Court Opera (today the Vienna State Opera) and Principal Conductor of the New York Philharmonic, he was the Hamburg State Opera's Chief Conductor when he wrote No. 3. The composition took place mostly in Steinbach, an area of spectacular natural beauty by the lake Attersee in Upper Austria, during the summers of 1895 and 1896. Back in 1893, the busy conductor had established his pattern to compose at a scenic resort during the off-concert-season as a "summer composer."

Cast in six movements (planned in two parts), No. 3 calls for a large orchestra, an alto solo singer, a female chorus and a children chorus to depict all things in nature. Indeed, Mahler bore in mind some programs for the entire work and each movement. Although these programs were evolving and ultimately removed, they have helped both interpreters and listeners to be prepared for the composer's longest symphony with the last three movements performed without break (the following titles were presumably handed to the audience at the 1902 premiere of the whole work in Krefeld, Germany).

"A Summer's Morning Dream"

[Part 1] (I) The extended first movement "Pan Awakes, Summer Marches In (Bacchic Procession)" opens with a fanfare of eight horns in unison. This melody evoking the finale of Brahms's Symphony No. 1, will be transformed into the principle theme of the sixth

A

26 & 27 APR. 2025

movement.

[Part 2] (II –VI) The second movement “What the Flowers in the Meadow Tell Me” is a minuet. The third movement “What the Animals in the Forest Tell Me,” a scherzo, begins with cuckoos and then nightingales twittering. The trio (central) section’s distant signals by a posthorn (of a mail coach) might suggest humans. The fourth movement “What Man Tells Me” has the alto solo sing Midnight Song (“Oh man! Take heed!” ... “But all joy seeks deep, deep eternity!”) from Friedrich Nietzsche’s *Thus Spoke Zarathustra*. In the fifth movement “What the Angels Tell Me”, the children chorus imitates bells (“Bimm bamm”), while the alto solo and the female chorus sing about the three angels in heaven rejoicing that Peter is now free from sin thanks to the Lord Jesus. The sixth movement “What Love Tells Me” is a tranquil Adagio. This flexible rondo on the theme given by violins at the start will conclude grandly in D major.

A

26 & 27 APR. 2025

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.2037

Suntory Hall

May

1 (Thu) 7:00pm

2 (Fri) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 59

violin

Akiko Suwanai

soprano

Maki Mori★

concertmaster

Sunao Goko

The Program Scheduled to be Performed in
NHKSO Europe Tour 2025

Alban Berg

Violin Concerto [27']

I Andante-Allegretto

II Allegro-Adagio

— intermission (20 minutes) —

Gustav Mahler

Symphony No. 4 G Major★ [56']

I Bedächtig. Nicht eilen

II In gemächlicher Bewegung. Ohne Hast

III Ruhevoll: Poco adagio

IV Sehr behaglich

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Akiko Suwanai, violin



AKIKO SUWANAI

After becoming the youngest winner of the Tchaikovsky International Competition in 1990, Akiko Suwanai has continued to make successful performances worldwide. She learned under the tutelage of Toshiya Eto, and studied at the Soloist Diploma Course of Toho Gakuen School of Music, the Juilliard School, Columbia University and the Berlin University of the Arts. In addition to her performing career, she founded the

International Music Festival NIPPON in 2012, and as its Artistic Director, has held concerts and master classes in Tokyo, Aichi as well as in cities in northern Japan.

Her first appearance with the NHK Symphony Orchestra in its subscription concert was in November 1991, and she performed Bruch's Violin Concerto No. 1 under the baton of Tadaaki Otaka. In the International Music Festival NIPPON in February 2022, she played Dutilleux's Nocturne for Violin and Orchestra *Sur le même accord* and Brahms' Violin Concerto with the NHK Symphony Orchestra under Otaka's baton, which was well received.

B

1 & 2. MAY 2025

In the coming performance, she will perform Berg's Violin Concerto, which she is also to perform in three cities in the subsequent European tour of the orchestra. Her performance with her beloved violin, the Guarneri del Gesù 'Charles Reade' made in 1732 (on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno), which has both luster and strength, she will surely deliver a transient yet aesthetic sound to the audience.

Maki Mori, soprano



Maki Mori is a soprano with a high and clear voice and coloratura singing technique. She studied at Tokyo University of the Arts and its postgraduate course, as well as in Milan and Munich, and has won top prizes at home and abroad, including the Plácido Domingo World Opera Competition "Operalia."

In 1998, she was the first Japanese to appear at the Washington National Opera in the United States singing in *Die Entführung aus dem Serail*. She has continuously appeared at opera house in the U.S. as well as Europe, while also performing in many opera productions in Japan, singing roles including Violetta in *La Traviata*, as well as recitals and concerts nationwide. She is also popularly known for the main theme music for NHK television's special drama titled *Saka no Ue no Kumo* (*Clouds above the Hill*).

Her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra in its subscription concert was in May 2000 when she appeared as soloist to sing Mozart's motette of *Exsultate, Jubilate* under the baton of David Robertson. Since then, she has often appeared with the orchestra singing Mozart *Requiem* and Beethoven's Symphony No.9 *Choral*.

The soprano in the final movement of Mahler's Symphony No. 4 is singing of a happy life in heaven in a light and lovely way, so it will suit her perfectly.

[Akiko Suwanai, Maki Mori by Kotaro Yamazaki, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Alban Berg (1885–1935)

Violin Concerto

Vienna remained a capital of music throughout the 19th century ever since Joseph Haydn (1732–1809) established the First Viennese School. At the turn of the next century, the City of Music witnessed a major shift from the late-Romanticism culminating with Gustav Mahler (described later) to the modernistic Second Viennese School initiated by Arnold Schönberg (1874–1951).

The Vienna-born composer Berg, one of Schönberg's two devoted disciples alongside Anton Webern (1883–1945), followed his teacher's stylistic evolutions. They developed an atonal language free from any major/minor key, before Schönberg fully established the twelve-tone technique in 1921. The technique of treating all the twelve notes of an octave equally

meant the dissolution of the hierarchy of the keys and notes. However, Berg adopted this novel technique less strictly than Webern and often revealed nostalgia for tonality in his works.

Composed during a single sitting in 1935, the Violin Concerto is the last piece Berg completed before he untimely passed away at the end of the same year. The dedication “To the memory of an angel” refers to Manon Gropius (1916–1935), the daughter of the architect Walter Gropius and Alma Mahler-Werfel (the widow of Mahler). Berg felt deep sorrow at the early death by polio of Manon whom he and his wife had treated like their own child.

The first movement, portraying Manon during her life, consists of two sections (Andante 4/4 – Allegretto 6/8). Andante is opened by clarinets, a harp and the violin solo introducing the twelve-tone row that the concerto is based on (G–B $\flat$ –D–F $\sharp$ –A–C–E–G $\sharp$ –B–C $\sharp$ –E $\flat$ –F). Famously abundant in tonal elements, this row sounds Romantic at times. Light-hearted, Allegretto has a symmetric structure (Scherzo – Trio1 – Trio2 – Trio1 – Scherzo).

The second movement, describing Manon’s mortal suffering and ascension to heaven, is also divided into two sections (Allegro 3/4 – Adagio 4/4). To start Adagio, the violin solo calmly quotes the chorale *Es ist genug* (*It is Enough*) from J. S. Bach’s cantata *O Ewigkeit, du Donnerwort* (*O Eternity, Thou Word of Thunder*) BWV60, which is followed by variations on this melody.

Gustav Mahler (1860–1911)

Symphony No. 4 G Major

In 1930, the NHK Symphony Orchestra (then the New Symphony Orchestra of Tokyo) under the baton of its founder Hidemaro Konoe made history recording Mahler’s Symphony No. 4 for the first time in the world. Worth noting in particular is that the orchestra led by its Chief Conductor Fabio Luisi will soon perform No. 4 (and No. 3) debuting at Amsterdam’s renowned Mahler Festival as the first Asian orchestra (see also p.61).

Mahler’s No. 2 (1894), No. 3 (1896) and No. 4 (1900) are collectively known as the *Wunderhorn* (*Magic Horn*) Symphonies, for the three works are inextricably bound up with the composer’s own song series *Des Knaben Wunderhorn* (*The Boy’s Magic Horn*). Mentioning the sisterhood of No. 3 and No. 4 is especially unavoidable, because the finale of No. 4 was supposed to be the closing seventh movement (initially entitled “What the Child Tells Me”) of No. 3. This salvaged movement is actually the rework of Mahler’s song for voice and orchestra “Das himmlische Leben (Heavenly Life)” (1892) that he once included in the *Wunderhorn* song series.

Mahler was at the peak of his conducting career when he composed No. 4. The Jewish musician was converted to Roman Catholicism in 1897 right before the prestigious Vienna Court Opera appointed him Kapellmeister (later Director), posts that Mahler had long dreamed of. From 1898 on, he would be concurrently in charge of the direction of the Vienna Philharmonic Orchestra’s subscription concerts. Mahler a.k.a. The Summer Composer set to work on No. 4 (starting with the above-mentioned final movement) during the 1899 summer break at the Austrian spa town Altaussee and completed it the next summer at the Austrian lakeside resort Maiernigg. He would keep revising it before and even after the 1901 premiere in Munich.

Unlike the six-movement long and massive No. 3, the four-movement compact No. 4 calls for a relatively small orchestra (without tuba and trombone). The first movement, a G-major sonata, is opened by flutes and leigh bells. These apparently naive but meaningful bells will play a vital role at the final “Heavenly Life / What the Child Tells Me” movement where the soprano solo sings about the joy of heaven (“We wallow in heavenly pleasures” ... “No worldly

tumult is heard in heaven” ... “Delicious apples, delicious pears and delicious grapes! The gardeners allow everything”... “There’s no music on earth that can compare with ours”). In this pseudoclassical or neoclassical symphony, Mahler’s parodic spirit is the most discernible in the eerie second movement. This scherzo in C minor lets the concertmaster play on a violin tuned a whole note higher (A–E–B–F#) while other orchestral violins are tuned normally (G–D–A–E). This dance macabre (dance of death) is to portray, according to Mahler’s own words, “Freud Hein (Death) performing his fiddle.”

B

1 & 2. MAY 2025

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 62

PROGRAM

C

Concert No.2038

NHK Hall

May

30 (Fri) 7:00pm

31 (Sat) 2:00pm

conductor

Giedrė Šlekytė

piano

Mao Fujita★

concertmaster

Kota Nagahara

Franz Schubert

Rosamunde, overture [10']

Ernst von Dohnányi

Variations on a Nursery Tune,
Op. 25★ [23']

— intermission (20 minutes) —

Richard Strauss

*Symphonic Fantasy from
Die Frau ohne Schatten**(The Woman Without a Shadow)* [20']

Richard Strauss

Suite from Der Rosenkavalier
(The Rose-Bearer) [22']

- All performance durations are approximate.

C

30 & 31. MAY. 2025

Artist Profiles

Giedrė Šlekytė, conductor



©Theresa Pivell

Giedrė Šlekytė, who will conduct the NHK Symphony Orchestra for the first time, was born in Vilnius, Lithuania. After studying at an art school named after Mikalojus Čiurlionis, the composer of her native land, she pursued further studies in conducting at institutions including the University of Music and Performing Arts Graz, and the Zurich University of the Arts, winning many prizes in international conducting competitions. From 2016 to 2018, she served as 1st Kapellmeister at Stadttheater Klagenfurt, and went on to assume the position of Principal Guest Conductor of the Bruckner Orchester Linz in 2021.

She has been assigned to conduct new opera productions at the Oper Frankfurt and the Bayerische Staatsoper, and in the 2024–25 season, she made a debut at the Wiener Staatsoper, and has been scheduled to return to the Staatsoper Unter den Linden. Thus she

has been quite active in the operatic field while also vigorously developing her career as a concert conductor. Her first visit to Japan was in 2021 when she conducted Tokyo Nikikai Opera Foundation's *Die Zauberflöte*, then on her visit in 2023, she guest-conducted the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. She also enjoys works of her contemporary composers and has released CDs of works by Žibuoklė Martinaitytė and Raminta Šerkšnytė.

The program of the subscription concert she will conduct has a line-up of works which will please the audience with the ingenuity of orchestration such as orchestral music based on R. Strauss' operas, and a masterpiece of Dohnányi who was also a virtuoso pianist. Expectations are high on how Šlekýtė, who weaves music vivaciously while sending cues in an agile and supple manner, will present music.

[Giedrė Šlekýtė by Nobuyasu Matsuoka, music critic]

Mao Fujita, piano



©Doris Bernotas

Mao Fujita, a 26-year-old pianist born in Tokyo, won First Prize at the prestigious Clara Haskil International Piano Competition in Switzerland along with other prizes including the Audience Award in 2017 when he was still at the Tokyo College of Music. He came to global attention when he won 2nd Prize at the 16th International Tchaikovsky Competition in 2019, and since then, he has worked under the batons of the world's

most prominent conductors, such as Riccardo Chailly, Christoph Eschenbach, Andris Nelsons, Charles Dutoit, and Semyon Bychkov, and with leading orchestras at home and abroad, including the Royal Concertgebouw Orchestra, Gewandhausorchester Leipzig, Münchner Philharmoniker, NHK Symphony Orchestra, Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, and Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. He has also been invited to festivals, such as the Lucerne Festival, Verbier Festival, Edinburgh International Festival, and the BBC Proms. He enjoys a wide repertoire ranging from the music of Mozart, which is sometimes described as naive exuberance, to that of Scriabin, often characterized as music of ecstasy, and he vividly expresses works in his performances with detailed interpretation and solid technique. And he is expected to brilliantly deliver Dohnányi's music, a work in which familiar themes will opulently develop. This is his first collaboration in 4 years with the NHK Symphony Orchestra since performing in 2021.

[Mao Fujita by Arisa Iida, music facilitator]

Franz Schubert (1797–1828)

Rosamunde, overture

Born in Vienna, Schubert led a short but astonishingly prolific life leaving us as many as around 600 Lieder (German songs). However, it is not well known that the composer of the breathtakingly dramatic song *Der Erlkönig* (*The Erlking*) also applied himself to writing theatrical music (opera, Singspiel and incidental music). Worth specific mention is that Schubert as a boy studied composition under the Italian opera master Antonio Salieri (1750–1825) who was the Viennese Court's music director.

1819–1820 was a period Schubert was especially enthusiastic about composing for stage, one of the fruits being the incidental music for the three-act play *Die Zauberharfe* (*The Magic Harp*). He wrote the music in the summer of 1820 at the request of the Theater an der Wien where this “Zauberspiel mit Musik (magic play with music)” was staged eight times the same year. The overture to the first act is well-accepted today as the one for *Rosamunde, Fürstin von Zypern* (*Princess of Cyprus*), because it was reused as so at the publication of Schubert's incidental music for this play.

The overture has a slow, solemn introduction in C minor. The main Allegro section in C major is a sonata with the cheerful first theme (introduced by violins) and the calmer songful second theme (given by woodwinds). Interestingly, the music is reminiscent of Schubert's *Overture in the Italian Style* No. 1 in D major (1817), a work reflecting his craze for another Italian opera master Gioacchino Rossini (1792–1868).

Ernst von Dohnányi (1877–1960)

Variations on a Nursery Tune, Op. 25

The Hungarian composer Dohnányi, four years older than his compatriot Béla Bartók (1881–1945), was trained at the Budapest Academy founded by Franz Liszt. Dohnányi's “opus 1,” the Piano Quintet in C minor written in his late teens (1895), received acclaim from Johannes Brahms (1833–1897) who set the stage for its premiere in Vienna. In contrast to Bartók whose compositions were often rooted in folk music, Dohnányi's style follows in the wake of the 19th-century German Romanticism under the strong influence of Robert Schumann and, above all, Brahms.

Dohnányi also left his mark on history as one of the greatest virtuoso pianists ever. His 1898 successful appearance in London as the soloist of Beethoven's Piano Concerto No. 4 set off the former's long-term stardom as a concert pianist in Europe and USA. His most notable achievements are the performances of all Beethoven's piano works (1920) and all Mozart's twenty-seven piano concertos (1941).

Dohnányi wrote the *Variations on a Nursery Tune* in his late thirties in 1914 during the period when he, an excellent educator as well, taught at the Berlin Hochschule at the invitation of the Hungarian violinist Joseph Joachim (a close friend of Brahms). Dohnányi himself served as the soloist of the *Variations* at the 1914 premiere in Berlin, fully showcasing his high musicality both as a composer and pianist.

What Dohnányi inscribed on the manuscript—“For the enjoyment of friends of humor,

to the annoyance of others”— is very suggestive. The orchestral introduction is amazingly majestic, prior to the startlingly simple announcement of the theme (*Twinkle, Twinkle, Little Star* / *Ah vous dirai-je, Maman*) by the piano. Then the eleven variations and the finale come. On occasions, Dohnányi's witty pen vaguely evokes styles of certain famed composers, such as Richard Strauss (Introduction), Liszt (Variation 1), Brahms (Variation 3, Variation 10 – a passacaglia), Johann Strauss (Variation 7 – a waltz), Tchaikovsky (Variation 8 – a march) and Debussy (Variation 11 – a chorale). Opened by some Beethovenian introductory gestures, the vivacious Finale is a fugue over which the pianist unfolds a restless virtuosic passagework. The return of the theme in its original form, again startlingly simple, leads to the sparkling conclusion full of humor.

Richard Strauss (1864–1949)

Symphonic Fantasy from *Die Frau ohne Schatten* (*The Woman Without a Shadow*)

Born in Munich, Strauss was a long-lived and prolific composer. The eminent orchestrator fully explored possibilities of musical narrativity in the genre of symphonic poem during the early stage of his career. Then the focus of his composition shifted to the opera leaving us fifteen works in total. The artistic partnership between him and the Austrian dramatist-poet-librettist Hugo von Hofmannsthal (1874–1929) became history in particular from their first collaboration *Elektra* (1908). It was followed by their six masterworks including after-mentioned *Der Rosenkavalier* (1910) and *Die Frau ohne Schatten* (1917).

For the plot of *Die Frau ohne Schatten*, a quest for humanity and love, Strauss and Hofmannsthal were inspired by Mozart's *The Magic Flute*. In 1919, Strauss was appointed co-director of the Vienna State Opera where *Die Frau ohne Schatten* was world-premiered the same year. (Incidentally, the 1984 Japanese premiere of the opera was under the baton of Christoph von Dohnányi, a grandson of above-mentioned Ernst von Dohnányi.)

The story of the opera is about the Emperor and the “shadowless” Empress, daughter of Keikobad (King of the Spirit Realm). Here the shadow is synonymous with the ability to give birth. Keikobad puts a curse on the newlywed couple so the Emperor would be stone unless the Empress gets a shadow within a year. The subplot features a mortal couple going through a marital crisis: the Dyer and his Wife. Although endowed with a shadow, the Wife swears not to have any child. The Empress, in disguise, goes down to the human world and asks the Dyer's Wife to sell her the shadow, but ends up abandoning the plan for the sake of the Dyer couple. The Empress's self-renunciation brings about miracles: she obtains a shadow, the Dyer couple restores a lost love and the two couples are happily reunited.

The Symphonic Fantasy for orchestra was prepared by the composer himself in his closing years in 1946. It was partly to compensate for the infrequency of the opera being staged due to its large scale, highly demanding vocal parts, gigantic orchestra and intricate, symbolic plot. A sort of symphonic poem based on the opera, the Fantasy begins with one of the important leitmotifs (recurrent melodic or/and harmonic elements representing certain characters, situations, feelings or so): the grave, descending three-note motif representing Keikobad. Interestingly enough, the rest of the Fantasy is mainly built of leitmotifs linked to the Dyer and his Wife presumably modeled on Strauss's own wife Pauline. Furthermore, the Fantasy reaches its climax with the Dyer couple's lyrical love duet *Mir anvertraut* (*Entrusted to me*) from the final act of the opera.

Suite from *Der Rosenkavalier* (*The Rose-Bearer*)

The opera *Der Rosenkavalier* was a turning point in Strauss' stylistic transition. As opposed to the grisly, almost atonal predecessor *Elektra*, *Der Rosenkavalier* was viewed as a Mozartian comedy by the composer and his librettist Hofmannsthal. This, so to say, "*Marriage of Figaro* wearing late-Romantic clothes" incited contemporary critics to accuse Strauss of stylistically regressing, while its 1911 premiere was an unexampled success among the audience.

The opera is set in 18th-century Vienna. The title refers to an imaginary noble custom for a suitor to send a messenger with a silver rose to the bride-to-be. The center of the bittersweet story is Marschallin, a marshal's wife, having an affair with the teenage Count Octavian. He, by recommendation of his mistress, becomes a Rose Cavalier for Baron Ochs and presents the rose to beautiful young Sophie. Octavian and Sophie fall in love with each other at first sight. Marschallin, heartbroken, has the grace to accept reality.

The orchestral suite performed today is the one prepared anonymously in the mid-1940s and authorized by Strauss. Without any break, it appears to be a symphonic poem freely treating some highlights and waltzes from the original. The suite starts with a famous lovemaking part from the opera with the youthful ascending theme of Octavian (horns) and the refined descending theme of Marschallin (strings) entangled. Later we hear the recurring glittering motif of the silver rose played mainly by flutes, harps and celesta.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 62

The Subscription Concerts Program 2024–25

A	NHK Hall Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm) Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)	B	Suntory Hall Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)	C	NHK Hall Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm) Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)
----------	---	----------	---	----------	---

2025 05	A	Concert No. 2036 April 26 (Sat) 6:00pm 27 (Sun) 2:00pm – Program A of the May subscription concerts will be held in April. NHK Hall	The Program Scheduled to be Performed in NHKSO Europe Tour 2025 Mahler Symphony No. 3 D Minor Fabio Luisi, conductor Olesya Petrova, mezzo soprano Tokyo Opera Singers, female chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus		Ordinary S 15,000 A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	Youth S 7,000 A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
	B	Concert No. 2037 May 1 (Thu) 7:00pm 2 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	The Program Scheduled to be Performed in NHKSO Europe Tour 2025 Berg Violin Concerto Mahler Symphony No. 4 G Major* Fabio Luisi, conductor Akiko Suwanai, violin Maki Mori, soprano*		Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	C	Concert No. 2038 May 30 (Fri) 7:00pm 31 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Schubert <i>Rosamunde</i> , overture Dohnányi <i>Variations on a Nursery Tune</i> , Op. 25* R. Strauss Symphonic Fantasy from <i>Die Frau ohne Schatten</i> (The Woman without a Shadow) R. Strauss Suite from <i>Der Rosenkavalier</i> (The Rose-Bearer) Giedrė Šlekytė, conductor Mao Fujita, piano*		Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
2025 06	A	Concert No. 2039 June 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Rimsky-Korsakov <i>May Night</i> , opera—Overture Rakhmaninov <i>Rhapsody on a Theme of Paganini</i> , Op. 43* Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, <i>Pathétique</i> Vladimir Fedoseyev, conductor Yulianna Avdeeva, piano*		Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
	B	Concert No. 2040 June 12 (Thu) 7:00pm 13 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Ibert Flute Concerto Bruckner Symphony No. 6 A Major Juanjo Mena, conductor Karl-Heinz Schütz, flute		Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	C	Concert No. 2041 June 20 (Fri) 7:00pm 21 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Korngold Violin Concerto D Major Op. 35 Mahler Symphony No. 1 D Major, <i>Titan</i> Tarmo Peltokoski, conductor Daniel Lozakovich, violin		Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

The Subscription Concerts Program 2025–26

2025
09

A Concert No. 2042
September
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*
Franz Schmidt Symphony No. 4 C Major

Fabio Luisi, conductor
Yefim Bronfman, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B Concert No. 2043
September
18 (Thu) 7:00pm
19 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Takemitsu *Three Film Scores*
Beethoven Violin Concerto D Major Op. 61
Mendelssohn Symphony No. 4 A Major Op. 90, *Italianische (Italian)*

Fabio Luisi, conductor
María Dueñas, violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. 2044
September
26 (Fri) 7:00pm
27 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Mahler *Des Knaben Wunderhorn (The Boy's Magic Horn)*
—*Rheinlegendchen (Little Rhine Legend)**,
*Wo die schönen Trompeten blasen (Where the Fair Trumpets Sound)**,
*Das irdische Leben (Earthly Life)**, *Das himmlische Leben*
*(Heavenly Life)**, *Urlicht (Primeval Light)**

Sibelius *Four Legends*, symphonic poem Op. 22
Ryan Bancroft, conductor
Thomas Hampson, baritone*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2025
10

A Concert No. 2046
October
18 (Sat) 6:00pm
19 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Stravinsky *Symphony of Psalms*
Mendelssohn Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52,
*Lobgesang (Hymn of Praise)**

Herbert Blomstedt, conductor
Christina Landshamer, soprano*
Marie Henriette Reinhold, mezzo soprano* Tilman Lichdi, tenor*
Swedish Radio Choir, chorus

Ordinary	Youth
S 15,000	S 7,000
A 12,500	A 6,000
B 10,000	B 5,000
C 8,000	C 4,000
D 6,500	D 3,000
E 4,500	E 2,000

B Concert No. 2045
October
9 (Thu) 7:00pm
10 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Grieg *Aus Holbergs Zeit*, suite Op. 40 (*Holberg Suite*)
Nielsen Flute Concerto
Sibelius Symphony No. 5 E-flat Major Op. 82

Herbert Blomstedt, conductor
Sébastien Jacot, flute

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. 2047
October
24 (Fri) 7:00pm
25 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83
Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90

Herbert Blomstedt, conductor
Leif Ove Andsnes, piano

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

2025
11

A Concert No. 2048
November
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Messiaen *Trois petites liturgies de la Présence Divine*
*(Three Little Liturgies of the Divine Presence)**
Holst *The Planets*, suite Op. 32

Charles Dutoit, conductor
Yu Kosuge, piano* Motoko Oya, ondes martenot*
Tokyo Opera Singers, female chorus

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

B Concert No. 2050
November
20 (Thu) 7:00pm
21 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Schumann *Manfred*, incidental music Op. 115—Overture
Mozart Piano Concerto No. 25 C Major K. 503
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Rafael Payare, conductor
Emanuel Ax, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. 2049
November
14 (Fri) 7:00pm
15 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 150th Anniversary of Maurice Ravel's Birth
Ravel *Pavane pour une Infante défunte (Pavane for a Dead Princess)*
Ravel *Le tombeau de Couperin*, suite (*The Grave of Couperin*)
Ravel *Daphnis et Chloé*, ballet (*Daphnis and Chloé*)*

Charles Dutoit, conductor
Nikikai Chorus Group, chorus*

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

			A NHK Hall		B Suntory Hall		C NHK Hall	
			Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm) Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)		Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)		Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm) Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)	
2025	12	A	Concert No. 2051		Shostakovich Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77 Zemlinsky <i>Die Seefjungfrau</i> , fantasy (<i>The Mermaid</i>)		Ordinary Youth	
			November				S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
			29 (Sat) 6:00pm 30 (Sun) 2:00pm					
			Program A of the December subscription concerts will be held in November. NHK Hall		Fabio Luisi, conductor Leonidas Kavakos, violin			
		B	Concert No. 2052		Fujikura <i>Ocean Breaker</i> for Orchestra—in memoriam Pierre Boulez (2025) [Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere] Franck <i>Variations Symphoniques</i> for Piano and Orchestra (<i>Symphonic Variations</i>)* Saint-Saëns Symphony No. 3 C Minor Op. 78, <i>Symphonie avec orgue</i> (<i>Organ Symphony</i>)		Ordinary Youth	
			December				S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750	
			4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm					
			Suntory Hall		Fabio Luisi, conductor Tom Borrow, piano*			
		C	Concert No. 2053		Chopin Piano Concerto No. 1 E Minor Op. 11 or No. 2 F Minor Op. 21 Nielsen Symphony No. 4 Op. 29, <i>The Inextinguishable</i>		Ordinary Youth	
			December				S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
			12 (Fri) 7:00pm 13 (Sat) 2:00pm					
			NHK Hall		Fabio Luisi, conductor The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition, piano			
2026	01	A	Concert No. 2054		Mahler Symphony No. 6 A Minor, <i>Tragische</i> (<i>Tragic</i>)		Ordinary Youth	
			January				S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
			17 (Sat) 6:00pm 18 (Sun) 2:00pm					
			NHK Hall		Tugan Sokhiev, conductor			
		B	Concert No. 2056		Mussorgsky / Shostakovich <i>Khovanshchina</i> , opera — <i>Dawn over the Moscow River</i> , prelude Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102 Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100		Ordinary Youth	
			January				S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750	
			29 (Thu) 7:00pm 30 (Fri) 7:00pm					
			Suntory Hall		Tugan Sokhiev, conductor Kanon Matsuda, piano			
		C	Concert No. 2055		Debussy <i>Prélude à l'après-midi d'un faune</i> (<i>Prelude to the Afternoon of a Faun</i>) Dutilleux Cello Concerto, <i>Tout un monde lointain...</i> (<i>A Whole Distant World...</i>) Rimsky-Korsakov <i>The Tale of Tsar Saltan</i> , suite Op. 57 Stravinsky <i>The Firebird</i> , ballet suite (1919 edition)		Ordinary Youth	
			January				S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400	
			23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm					
			NHK Hall		Tugan Sokhiev, conductor Michiaki Ueno, cello			
2026	02	A	Concert No. 2057		Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, <i>Rheinische</i> (<i>Rhenish</i>) Wagner <i>Götterdämmerung</i> , opera— <i>Siegfried's Rheinfahrt</i> , <i>Siegfried's Tod und Trauermarsch</i> , Brünnhildes <i>Schlussgesang</i> : <i>Starke Scheite schichtet mir dort*</i> (<i>Twilight of the Gods</i> — <i>Siegfried's Rhine Journey</i> , <i>Siegfried's Funeral March</i> , Brünnhilde's <i>Immolation</i>)		Ordinary Youth	
			February				S 10,000 S 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000	
			7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm					
			NHK Hall		Philippe Jordan, conductor Tamara Wilson, soprano*			
		B	Concert No. 2059		Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53 Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11		Ordinary Youth	
			February				S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750	
			19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm					
			Suntory Hall		Jakub Hruša, conductor Josef Špaček, violin			
		C	Concert No. 2058		NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Kodály Variations on a Hungarian Folksong <i>The Peacock</i> Hummel Trumpet Concerto E Major Mussorgsky / Konoe <i>Pictures at an Exhibition</i> , suite		Ordinary Youth	
			February				S 10,000 S 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000	
			13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm					
			NHK Hall		Gergely Madaras, conductor Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet			

2026
04

Concert No. 2060

April

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1
Bruckner Symphony No. 9 D MinorFabio Luisi, conductor
Jan Vogler, cello

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

Concert No. 2061

April

16 (Thu) 7:00pm

17 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622
Mahler Symphony No. 5 C-sharp MinorFabio Luisi, conductor
Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Concert No. 2062

April

24 (Fri) 7:00pm

25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Toyama *Divertimento for Orchestra*
Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26
Ifukube *Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)*
Britten *Peter Grimes*, opera—*Four Sea Interludes* Op. 33a

Tatsuya Shimono, conductor Kyohei Sorita, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026
05

Concert No. 2064

May

23 (Sat) 6:00pm

24 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102
Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25Michael Sanderling, conductor
Christian Tetzlaff, violin
Tanja Tetzlaff, cello

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

Concert No. 2063

May

14 (Thu) 7:00pm

15 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Kazuo Yamada *Also sang ein Jüngling*, small symphonic poem
(Thus Sang a Young Man)
Hartmann *Concerto funebre (Funereal Concerto)**
Sugata *Symphonic Overture* Op. 6
Hindemith *Mathis der Maler*, symphony (*Matthias the Painter*)

Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Concert No. 2065

May

29 (Fri) 7:00pm

30 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Vasks Commission Work for NHK Symphony Orchestra [Japan Premiere]
Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43

Andris Poga, conductor

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026
06

Concert No. 2067

June

13 (Sat) 6:00pm

14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel*
(The Mastersingers of Nuremberg—Prelude)
Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453
Bartók *Concerto for Orchestra*

Jaap van Zweden, conductor
Conrad Tao, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

Concert No. 2066

June

4 (Thu) 7:00pm

5 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Honegger *Pastorale d'été*, symphonic poem (*Summer Pastoral*)
Berlioz *Les nuits d'été*, songs Op. 7 (*Summer Nights*)
Iber *Escales (Ports of Call)*
Debussy *La mer*, three symphonic sketches (*The Sea*)

Stéphane Denève, conductor
Gaëlle Arquez, mezzo soprano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Concert No. 2068

June

19 (Fri) 7:00pm

20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Sibelius *Andante festivo*
Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47
Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44

Tadaaki Otaka, conductor
HIMARI, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Overseas Tours

Europe Tour 2025 | Conductor: Fabio Luisi (Chief Conductor of NHKSO)

Program A	Mahler / Symphony No. 3 D Minor	Olesya Petrova, mezzo soprano Women of the National Radio Choir, female chorus National Children's Choir, children chorus
Program B	Mahler / <i>Des Knaben Wunderhorn</i> (The Boy's Magic Horn)– <i>Wo die schönen Trompeten blasen</i> (Where the Fair Trumpets Sound)*, <i>Das irdische Leben</i> (Earthly Life)*, <i>Urlicht</i> (Primeval Light)*, <i>Revelge</i> (Reveille)*, <i>Der Tamboursg'sell</i> (The Drummer Boy)* Mahler / Symphony No. 4 G Major**	Matthias Goerne, baritone* Ying Fang, soprano**
Program C	Grieg / Piano Concerto A Minor Op. 16 Mahler / Symphony No. 4 G Major*	Rudolf Buchbinder, piano Ying Fang, soprano*
Program D	Takemitsu / <i>Three Film Scores</i> for String Orchestra Berg / Violin Concerto Brahms / Symphony No. 4 E Minor Op. 98	Akiko Suwanai, violin
Program E	Haydn / Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1 Mahler / Symphony No. 4 G Major*	Jan Vogler, cello Ying Fang, soprano*

2025	5/9 Fri 8:00pm Antwerp, Belgium	Queen Elisabeth Hall [Program C]
	5/11 Sun 8:15pm Amsterdam, Netherlands Mahler Festival 2025	The Concertgebouw, Main Hall [Program A]
	5/12 Mon 8:15pm Amsterdam, Netherlands Mahler Festival 2025	The Concertgebouw, Main Hall [Program B]
	5/14 Wed 7:30pm Vienna, Austria	Wiener Konzerthaus, Großer Saal [Program C]
	5/15 Thu 8:00pm Prague, Czech Prague Spring Festival 2025	Rudolfinum, Dvořák Hall [Program D]
	5/17 Sat 7:30pm Dresden, Germany Dresdner Musikfestspiele	Frauenkirchen [Program D]
	5/18 Sun 6:00pm Dresden, Germany Dresdner Musikfestspiele	Kulturpalast Dresden, Konzertsaal [Program E]
	5/20 Tue 7:30pm Innsbruck, Austria	Congress Innsbruck, Saal Tirol [Program D]



Supported by: 
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
Japan Arts Council

Sponsored by:



N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは放送し、番組配信のみ

※2 地域の一部は最長2週間配信

アプリで便利に



受信契約者のお名前と住所を入力すれば
すぐにご利用できます。

※放送受信規約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

NHKラジオを聴くなら！

NHK ラジオ らじる★らじる

「らじる★らじる」では、聴き逃しが放送終了後1週間何度でも楽しめます。

アプリ
ダウンロードは
こちらから



伝えるチカラ

NHK 財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ

◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報はこちらから

NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が
ホームページで
ご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

N響の社会貢献

子どもたちの未来を育む

“N響が学校にやってきた”をキャッチフレーズにNHKと共催して、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある高輪の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井出 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
ヴィオラ：和田志織 コントラバス：桑原孝太郎
クラリネット：白井宏典 打楽器：菊池幸太郎
(2025年4月30日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、飲食店、ショッピングセンターで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近では各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演に外国人留学生のみなさんを招待しています。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等	理事長	中野谷 公一							
	常務理事	三溝 敬志	大曾根 聡子						
	理事	相川 直樹	内永 ゆかり	岡田 知之	杉山 博孝	銭谷 真美	田辺 雅泰	團 宏明	毛利 衛
	監事	濱村 和則							
	評議員	稲葉 延雄	江頭 敏明	樺山 紘一	菅原 直	清野 智	田中 宏暁	檀 ふみ	坪井 節子
		中嶋 太一	前田 昭雄	三浦 惺	山名 啓雄	渡邊 修			

事務局	演奏制作部			企画プロモーション部		経営管理部		特別主幹	芸術主幹
	岩渕一真	高木かおり	高橋 啓	森下文典	黒川大亮	野村 歩	吉田麻子	今村啓一	西川彰一
	丸山千絵	沖あかね	上原 静	猪股正幸	三浦七葉子	浅田武志	杉山真知子	技術主幹	
	石井 康	内山弥生	木村英代	吉賀亜希	目黒重治	山本能寛			
	利光敬司	徳永匡哉	小倉康平	宮崎則匡					
								尾澤 勉	

団友	公門 俊之	三原 征洋	オーボエ	トランペット	瀬戸川 正 百瀬 和紀	事務局
	齋藤 真知亜	村山 弘				
	酒井 敏彦	山田 雄司				
名誉コンサート マスター	清水 謙二	チェロ	青山 聖樹 北島 章 浜 道晃 茂木 大輔	井川 明彦 北村 源三 来馬 賢 関山 幸弘 津堅 直弘 板本 浩規 福井 功 佛坂 咲千生	ピアノ 本荘 玲子	稲川 洋 入江 哲之 金沢 孝 小林 文行 清水 永一郎
	鈴木 弘一					
	田渕 彰					
堀 正文	田中 裕	岩井 雅音	クラリネット	野島 直樹 日向 英実 木田 幸紀 森 茂雄 今井 環 根本 佳則	理事長	関 照枝 中馬 究 出口 修平 西村 集介 芳賀 由明 松崎 ユリ 望戸 一男 諸岡 淳 吉田 博志 渡辺 克 渡辺 克己
	鶴我 裕子	木越 洋				
	中瀬 裕道	齋藤 鶴吉				
コンサートマスター	永峰 高志	三戸 正秀	磯部 周平 加藤 明久 横川 晴児	トロンボーン	役員	加納 民夫 唐木 田信也 斉藤 滋 原 武 山崎 大樹
	銅津 昭義	銅銀 久弥				
	堀江 悟	丹羽 経彦				
海野 義雄 川上 久雄 篠崎 史紀 徳永 二男 堀 伝 山口 裕之	前澤 均	平野 秀清	ファゴット	伊藤 清 神谷 敏 栗田 雅勝 三輪 純生 吉川 武典	加納 民夫 唐木 田信也 斉藤 滋 原 武 山崎 大樹	
	宮里 親弘	藤本 英雄				
	武藤 伸二	茂木 新緑				
ヴァイオリン	村上 和邦	コントラバス	岡崎 耕治 霧生 吉秀 菅原 恵子	ホルン	テューバ	
	蓬田 清重					
板橋 健 梅澤 美保子 大澤 淨 大林 修子 大松 八路 金田 幸男 川上 朋子 窪田 茂夫 黒柳 紀明	ヴィオラ	井戸 田善之 志賀 信雄 佐川 裕昭 新納 益夫	フルート	大野 良雄 中島 大之 樋口 哲生 松崎 裕 山田 桂三	有賀 誠門 岡田 知之	
	大久保 淑人	小野 富士				
	梯 孝則	河野 昌彦				
	菅沼 準二	菅原 潤				
	店村 眞積	細川 順三				
	田渕 雅子	宮本 明恭				
	中竹 英昭					

フィルハーモニー2025年5月号 | 第97巻 第4号
2025年5月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一)財NHK財団
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず



〈紙版&デジタル版発売中 / 2,420円税込〉

雑誌『目の眼』4・5月号

特集「江戸のメディアミックス 浮世絵と葛重」

江戸時代中期から後期にかけて、もっとも浮世絵の名品が生まれた全盛期、その時代を牽引した一人が葛屋重三郎。葛重は、いまでいうインフルエンサーとして活躍した人物で、喜多川歌麿、東洲斎写楽など、いまや世界的芸術家とみなされる浮世絵師を世に出したことで知られています。本号では葛重が手がけた作品を中心に、浮世絵が江戸期に果たした役割と、その魅力を紹介しています。

紙版・デジタル版雑誌から
ウェブサイトでご覧いただける
記事コンテンツまで

雑誌『目の眼』で12年以上書き継がれてきた名物リレー連載「美の仕事」。歴代の執筆陣紹介と名作選・特別収録をまとめたデジタル雑誌『目の眼』電子増刊第3号を配信中。

〈収録執筆陣〉

茂木健一郎 [脳科学者] 曾野綾子 [作家]
原 研哉 [グラフィックデザイナー]
久石 譲 [作曲家、指揮者、ピアニスト]
平野啓一郎 [作家] 村治佳織 [ギタリスト]
澤田瞳子 [作家] 秋川雅史 [テノール歌手]
土井善晴 [料理研究家]
橋本麻里 [学芸プロデューサー]
池坊専宗 [華道家]



* 電子増刊号は目の眼デジタルプランのご利用か、
Amazon kindle、honto でご購入いただけます。



骨董 古美術メディア 目の眼
menomeonline.com

目の眼

N響はつと コンサート

オーケストラとゆく
ちょっとふしぎな
夏の冒険



ナビゲーター：
一籠斎貞鏡（講師）



2025年8月3日 日 3:30pm
(開場 2:00pm)
NHKホール（東京・渋谷） ※途中休憩ありの2時間程度の公演です。



指揮：松本宗利音



ピアノ：阪田知樹*



管弦楽：NHK交響楽団

お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm(定休日：土・日・祝日)

※東京都内での主催公開演奏日は曜日に問わず10:00am～開演時刻まで営業いたします。
※電話受付のみのお営業となります。

主催：NHK/NHK交響楽団

協力：株式会社グローバル/グローバル楽器技術学院/株式会社ポケモン

© 2025 Pokémon. © 1995-2025 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc.
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャー・ゲームフリークの登録商標です。

夏だ！ 祭りだ！！

楽器をさわって音を出してみよう

N響メンバーによる

楽器体験工房



オーケストラの楽器をN響メンバーと一緒に
さわって音を出してみよう
さあ、ロビーに集合！

詳しくはN響ホームページ、公式Xでお知らせします

ピカチュウも
遊びに来るよ



※コンサート本編への
出演はございません

バーンスタイン/歌劇「キャンディード」序曲
グリーグ/劇音楽「ペール・ギュント」<抜粋・講談つき>
ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*
メンデルスゾーン/交響曲 第3番 短調「スコットランド」から 第2楽章
チャイコフスキー/イタリア奇想曲 <抜粋>
ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」ー「ジークフリートのラインの旅」

発売開始 5月16日(金) 10:00am (定期会員先行発売:5月12日(月) 10:00am)

前売所

◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp> ◎N響ガイド 0570-02-9502
◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso ◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso
◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

※「小・中学生」のチケットはすべての前売所までご購入いただけます。
※「ユースチケット(29歳以下)」はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
※定期会員割引・先行発売のお取り扱いいはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※小学生は、保護者の方と一緒にお願いします。
※未就学児のご入場はお断りしています。
※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。
※公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

Follow us on



nhkso.or.jp

「N響はつとコンサート」公式Xアカウント オープン！ このコンサートのみさまざまな情報を発信します



指揮
ダーヴィト・アフカム
David Afkham, conductor

© Gisela Schenker

Summer Concert
2025

N響 「夏」

2025 [東京公演]

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

主催: NHK / NHK交響楽団 協賛: 岩谷産業株式会社

管弦楽
NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

シューマン / ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
Schumann Piano Concerto A Minor Op. 54

ブラームス / 交響曲 第1番 ハ短調 作品68
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

2025年 7月18日(金) 7:00pm NHKホール
Friday, July 18, 2025 7:00pm NHK Hall

発売開始 5月16日(金) 10:00am
(定期会員先行発売: 5月12日(月)10:00am)

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥7,300 A: ¥5,300 B: ¥3,300 C: ¥2,100

[ユースチケット] S: ¥3,600 A: ¥2,600 B: ¥1,600 C: ¥1,000
(29歳以下)

これぞドイツ・ロマン派
ブラームスとシューマンの
傑作を味わう

ピアノ
マルティン・ヘルムヒェン
Martin Helmchen, piano

© Giorgia Bertazzi

お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502

※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合がございます

nhkso.or.jp

Follow us on



水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社



N響定期を75分で「いいとこどり」!

毎年9月にシーズンが開幕する「N響定期公演」を前に行われるのがこのコンサート。

名作揃いの定期公演プログラムから、選りすぐりの聴きどころを75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。

オーケストラは初めてという方、との演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、

とにかく手取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。

みんな連れだってNHKホールに足をお運びください。



定期公演ってなあに?

プロのオーケストラにとって「定期公演」は活動の中心となる大切なコンサート。N響では1927年に第1回が行われ、創立100年を迎える2026年1月には2050回以上の開催を重ねます。A・B・Cの3つのシリーズごとに年間9回各2日、合計年間54公演にわたって世界的な指揮者・ソリストたちと演奏を繰り広げます。

2025.
6.29 [日]

4:00pm 休憩のない75分程度の公演です。

NHKホール

指揮:平石章人

クラリネット: 松本健司 (N響首席クラリネット奏者)

ナビゲーター: 大林奈津子

ウェルカム・コンサート N響

NHKSO
Welcome
Concert



© Andrej Gric



ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 (抜粋) (6月A)

ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」—第2楽章 (抜粋) (12月A)

グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」—「ガヴオット」(10月B)

シベリウス／交響詩「4つの伝説」—「レンミンケイネンの帰郷」(9月C)

モーツァルト／クラリネット協奏曲—第2楽章 (4月B)

外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント—第3楽章 (4月C)

ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)—「王女たちの踊り」(1月C)

ホルスト／組曲「惑星」—「木星」(11月A)

終演後のお楽しみ! N響メンバーのトークコーナー

発売開始日 3月13日(木) 10:00am (一般) / 3月10日[月] 10:00am (定期会員先行)

前売所 ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

◎N響ガイド 0570-02-9502 ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso ◎ローソンチケット t-tike.com/nhkso

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「コース登録」が必要となります。

詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※申し込みについてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※未就学児のご入場はお断りしています。

※おやむを得ない理由で出演者や曲目等が必要となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合は、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

※観客モニター 満2歳〜未就学児の方がご利用いただけます(事前予約要/有料)。申し込み方法等の詳細はN響ホームページをご覧ください。

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502 営業時間: 10:00am~5:00pm (休休日: 土・日・祝日)

※東京都内での主催公開演奏日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。※電話受付のみの営業となります。

主催: NHK / NHK交響楽団

nhkso.or.jp 公演詳細はN響ホームページで公開中



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください

料金(税込/全席指定)

NHKホールの全席を1ランクに設定
良席はお早めに!

一般: ¥2,000 / 定期会員: ¥1,700

29歳以下はさらにお得 /

ユースチケット(29歳以下): ¥1,000

お得にみんなでNHKホールに! /

ウェルカム・ベアチケット
(2枚1組): ¥3,200

※一般・定期会員共通料金

Follow us on

指揮：イェルク・ヴィトマン
Jörg Widmann, conductor

ヴァイオリン：辻 彩奈
Ayana Tsuji, violin

トランペット：ホーカン・ハーデンベルガー
Håkan Hardenberger, trumpet

管弦楽：NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

TOKYO
OPERA
CITY

イェルク・ヴィトマン
Jörg Widmann

N響 MUSIC TOMORROW 2025

June 26 (Thursday) 7:00pm / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2025年6月26日 木 7:00pm | 尾高賞授賞式・プレトーク 6:30pm
東京オペラシティ コンサートホール

権代敦彦 / 時と永遠を結ぶ絃—ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193 (2023) [第72回「尾高賞」受賞作品]

Gondai / Strings between Time and Eternity for Violin and Orchestra Op. 193 (2023) [The 72nd Otaka Award Work]

ヴィトマン / 死の舞踏 (2022) [日本初演]

Widmann / Danse macabre for Orchestra (2022) [Japan Premiere]

ヴィトマン / 楽園へ(迷宮Ⅵ)—トランペットとオーケストラのための (2021) [日本初演]

Widmann / Towards Paradise (Labyrinth VI) for Trumpet and Orchestra (2021) [Japan Premiere]

作曲家たちの生と死をめぐる問いかけが
聴き手の生きる意欲を
奥底から温める

今年の Music Tomorrowでは、例年通り尾高賞受賞作品が披露されるほか、イェルク・ヴィトマンが指揮者として2作の自作自演を行う。2016年以来2度目の作品への受賞となる権代敦彦の《時と永遠を結ぶ絃—ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193》(2023)は、一首の粘り強く峻烈な持続で幕を開け、聴き手はいつしか温かな歌と滔々たる音の流れに包まれる。モチーフの扱いと緊密な時間の構築を得意とする権代の面目躍如である。権代に新作を委嘱した経験をもつヴァイオリン界の若きホープ、辻彩奈の入魂のソロに期待が集まる。クラリネット奏者、作曲家、指揮者として世界を飛び回るヴィトマンの2つの近作は、いずれも好評を博し各国で再演を重ねてきた。《死の舞踏》(2022)は、過去の音楽を重要な発想の源とするヴィトマンの関心を端的に表す一作。かつてリストやサン・サーンスが音楽化した骸骨たちの真夜中の舞臺が、現代的な装いを施されて鮮烈に蘇る。コロナ禍によるロックダウン、ユートピアの音楽をもつて対抗しようとしたヴィトマンが作曲したのが、『迷宮』サイクルの第6作として位置づけられるトランペット協奏曲《楽園へ(迷宮Ⅵ)》(2021)。世界的な手ホーカン・ハーデンベルガーが雄弁に描き出す親密で宥和的な音響世界はもちろん、ヴィトマンが好んで用いる奏者の移動や身ぶりにも注目したい。

生と死への意識に貫かれた権代作品と《死の舞踏》双方の響きに漂る根源的なエネルギー、《楽園へ》の穏和で天国的な表情——宗教的ヴィジョンによって緩やかに聴かせる3作は、聴く人の生への意欲を奥底から温めてくれるにちがいない。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

チケット発売中

チケット料金(税込)

◎ 一般 | S:4,000円 / A:3,000円 / B:2,000円

◎ ユースチケット(29歳以下) | S:2,000円 / A:1,500円 / B:1,000円

- ・ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
- ・初回に利用時に年齢確認のため「ユース登録」が必須となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- ・N響定期会員の方は一般料金の10%割引となります。また、先行発売をご利用いただけます(取り扱いはWEBチケットN響・N響ガイドのみ)。
- ・車いす利用についてはN響ガイドへお問い合わせください。
- ・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります
- ・未就学児のこども場はお断りしています

お問い合わせ

N響ガイド:0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm(定休日:土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は曜日にかかわらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。

※発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業となります。

※電話受付のみでの営業となります。

主催:NHK、NHK交響楽団

共催:公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

助成:公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団

公益財団法人 アフィニス文化財団

nhkso.or.jp | Follow us on



前
売
所

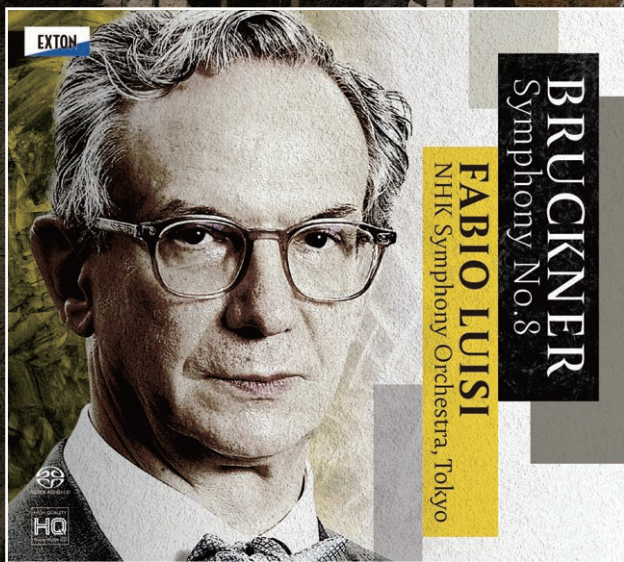
- ・WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- ・N響ガイド:0570-02-9502
- ・東京オペラシティチケットセンター:03-5353-9999
- ・チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- ・e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ・ローソンチケット:L-tike.com/nhkso



WEBチケットN響

2025 **5.21** NEW
RELEASE

N響 首席指揮者
ファビオ・ルイーヂ、
エクストン第1弾！



ブルックナー：交響曲 第8番 ファビオ・ルイーヂ（指揮） NHK交響楽団

2022年9月にNHK交響楽団の首席指揮者に就任したファビオ・ルイーヂは、これまでに欧州の名だたるオーケストラの音楽監督を歴任、世界の主要オペラハウスにもたびたび登場するなど、多くの音楽ファンを魅了しています。EXTON第1弾となる当CDは、彼が就任3年目を迎える2024-25シーズンの幕開けを飾った第2016回定期公演のライヴ録音です。ルイーヂが一貫して高く評価してきた初稿版を用いた演奏は、100年近いN響の歴史で初めてとなり大きな話題を呼びました。オーケストラのレベルの高さを感じる、溶け合うようなアンサンブルと力強く響くサウンド、会場が大歓声に包まれた渾身の演奏がここに収められています。

2024年9月14-15日 NHKホールにてライヴ収録
デジパック仕様 [CD&SACD] OVCL-00868 定価¥3,850(税込)

 **Octavia Records Inc.**

オクタヴィア・レコードWEB SHOPはこちら ➡



FABIO LUISI NHK Symphony Orchestra, Tokyo

水素で夢を実現。



2025年大阪・関西万博 水素の船から見える未来

時代はカーボンニュートラルへ。その夢に向け、私たちは切り拓いた。

水素をつくり、はこび、つかう。

その一つ一つのチャレンジが実を結び夢への軌跡を描いていく。

2025年、水素エネルギーが大きく動き出す。

水素でつなごう。人と、世界と、そして、夢を。



船の仕組みや
・ルートは
こちらから



岩谷産業は、
2025年大阪・関西万博を
応援しています。

Iwatani

岩谷産業株式会社